

平成17年度（第49回）
岩手県教育研究発表会発表資料

小規模・複式

**小規模校における
主体的に学ぶ力を育成する学習指導に関する研究**
- 学びの場を学級・学校外へと広げた
学習活動モデルプランの作成をとおして -

（第2年次）

研究協力校

花巻市立前田小学校

花巻市立笹間第二小学校

平成18年1月12日
岩手県立総合教育センター
教科領域教育室
吉田久美子

《 目 次 》

研究の目的	1
研究の仮説	1
研究の年次計画	1
平成17年度の研究内容与方法	1
1 目標	1
2 研究内容与方法	1
3 研究の対象	2
研究結果の分析と考察	2
1 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランに基づいた 授業実践計画と検証計画及び調査計画	2
(1) 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプラン作成に関する基本的な考え方	2
ア 小規模校における主体的に学ぶ力についての基本的な考え方	2
イ 個による学習活動と集団による学習活動に取り入れた自己決定場面について	3
ウ 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動を行うことについて	3
エ 指導過程に自己決定場面を位置付け、 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動を意図的に組み入れる意義	3
オ 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプラン作成の手順	4
カ 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動に 自己決定場面を位置付けた学習活動の流れとその配慮事項	6
(2) 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランを活用した 授業実践計画と検証計画及び調査計画	7
ア 授業実践計画	7
イ 検証計画	8
ウ 調査計画	8
2 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランを基にした授業実践と分析・考察	8
(1) 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランを基にした授業実践の概要	8
ア 学びの場を学級・学校外へと広げた授業実践1の概要	9
イ 学びの場を学級・学校外へと広げた授業実践2の概要	14
(2) 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランを基にした授業実践の分析と考察	17
ア 主体的に学ぶ力にかかわる授業実践の分析と考察	17
イ 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動にかかわる 児童と学級担任等の意識の分析と考察	20
3 小規模校における主体的に学ぶ力を育成する学習指導に関する研究のまとめ	21
(1) 成果	21
(2) 課題	22
研究のまとめ	22
1 研究の成果	22
2 今後の課題	23

おわりに

【参考文献】

研究の目的

今日、少子化により公立小学校の学級数が減少し、地域によっては少人数学級や複式学級を有する小規模校が増加傾向を示している。このような状況を受け、小規模校の特性を生かし主体的に生き生きと学習に取り組む子どもを目指した少人数・複式指導のより一層の充実が求められている。

しかし、児童の実態を見ると、自ら目的意識をもって主体的に学ぶ子どもには十分育てきれていない。これは、教師主導による一対一の指導に偏りがちになり、児童自らの課題解決への思いを十分生かした学習を展開してこなかったことが要因と考えられる。また、学級や学校内の固定した人間関係の中で、児童が多様な考えに触れ合い、新しい発想を生み出す学習を十分展開してこなかったことが要因と考えられる。

このような状況を改善するためには、学びの場を学級・学校外へと広げ、児童自らが課題解決への思いを十分生かして学習できる個による学習活動と新しい発想を生み出すことができる集団による学習活動を位置付け、一人一人が主体的に学ぶ力を育成する学習形態や指導方法を工夫することが必要である。

そこで、この研究は、小規模校の特性を生かし、学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動のモデルプランを作成することをとおして、主体的に学ぶ力を育成する学習指導を明らかにし、小規模校の指導の充実に役立てるものである。

研究の仮説

児童自らが課題解決への思いを十分生かして学習できる個による学習活動と新しい発想を生み出すことができる集団による学習活動に自己決定の場を効果的に取り入れ、学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランを作成し活用すれば、小規模校の児童に主体的に学ぶ力を育成することができるであろう。

研究の年次計画

この研究は、平成16年度から平成17年度にわたる2年次研究である。

第1年次（平成16年度）

小規模校における主体的に学ぶ力を育成する学習指導に関する基本的な考え方の検討、基本構想の立案、基本構想に基づいた学習活動モデルプランの作成

第2年次（平成17年度）

学習活動モデルプランに基づいた授業実践計画と検証計画及び調査計画の立案、授業実践とその分析・考察、小規模校における主体的に学ぶ力を育成する学習指導に関する研究のまとめ

平成17年度の研究内容と方法

1 目標

小規模校において、学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランに基づいた授業実践計画と検証計画及び調査計画を立案する。また、学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランを活用した授業実践とその結果の分析・考察をとおして、主体的に学ぶ力の育成状況を検証し、小規模校における主体的に学ぶ力を育成する学習指導に関する研究のまとめを行う。

2 研究内容と方法

(1) 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランに基づいた授業実践計画と検証計画及び調査計画の立案（文献法）

昨年度作成した学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランに基づいた授業実

践計画と検証計画及び調査計画を立案し、その手順及び留意点を明らかにする。

- (2) 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランを活用した授業実践の分析・考察（授業実践、観察法、質問紙法）

学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランを活用した授業実践計画に基づいた授業実践を行い、その結果について、授業における児童の様子を観察や、児童を対象とした事前・事後調査及び学級担任教師等を対象とした意識調査を基に児童の主体的に学ぶ力について分析・考察する。

- (3) 小規模校における主体的に学ぶ力を育成する学習指導に関する研究のまとめ

授業実践の成果と課題をまとめ、小規模校における主体的に学ぶ力を育成する学習指導に関する研究仮説の妥当性について明らかにする。

3 研究の対象

研究協力校 花巻市立前田小学校 花巻市立笹間第二小学校

研究結果の分析と考察

1 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランに基づいた授業実践計画と検証計画及び調査計画

- (1) 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプラン作成に関する基本的な考え方

小規模校における主体的に学ぶ力を育成する学習指導についての基本的な考え方とそれに基づく基本構想及び学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランの作成については、本研究の第1年次（平成16年度）に明らかにした。この第1年次の内容は、第2年次の研究内容でもある学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランの活用の基盤になるものであることから、以下にその概要を示すこととする。

ア 小規模校における主体的に学ぶ力についての基本的な考え方

学級を構成する人数や、学年を構成する人数が少ないという小規模校の特性を生かし、一人一人の児童の実態をきめ細かに把握することができる、個々の興味・関心に即して個性を引き出すことができる、学習内容の習得状況に応じて個別化を図った指導を行うことができる、複式学級では、二個学年の学習内容を相互にかかわらせた指導を行うことができる、などの児童の主体的な学びが展開されれば、自分の意志で学習している喜びを味わい、成就感や充実感を実感しながら学び方を身に付けることが可能である。また、そのことが確かな学力の習得や学びの継続、発展につながるものとする。

そこで、本研究では、小規模校における主体的な学びを、これまで教師主導に偏りがちであった指導から、児童に学習の必要感と目的意識を明確にもたせる指導に改善し、自己の考えを友達の考えと積極的にかかわらせることによって新しい発想を生み出して自己を高め、自己の学びを進んで広げようとするところであるととらえた。

主体的に学ぶ力を構成する要素

と主体的に学ぶ児童の具体的な姿 【表1】主体的に学ぶ力の構成要素と児童の具体的な姿は【表1】のとおりである。

構成要素	主体的に学ぶ児童の具体的な姿
新しい知識や技能を獲得する力	・ 明確な目的意識をもち、学習のゴール像を見通しながら課題解決に自主的に取り組んでいる。
他者とともに考える力	・ 多様な考えに進んでかかわり、他者とともに新しい発想を生み出そうとしている。
獲得した知識や技能を基に行動を起こす力	・ これまでの学び方を目的に応じて活用、修正し進んで学級・学校外に学びを広げようとしている。

イ 個による学習活動と集団による学習活動に取り入れた自己決定場面について

児童自らが課題解決への思いを十分生かして学習できる個による学習活動と新しい発想を生み出すことができる集団による学習活動を展開させることによって、主体的に学ぶ力を育成するためには、個による学習活動と集団による学習活動に児童自身が自分の意思で学習を進めているのだという意識をもたせる自己決定の場を取り入れることが効果的であると考えた。

「自己決定」とは、自分以外の誰かにやらされて学習を進めるのではなく、自分の意思で学習していると感じるために、自分の意思を決定することである。本研究では、自己決定する場面を特に、目的を明確にする場面、学びに対する交流を図る場面、学び直しを図り新たな目的をもつ場面で行っていく。これらの三つの自己決定場面を、個の学習活動と集団の学習活動の中に意図的に取り入れ、課題に対する自己の目的を明確にし、その目的に向けて自己の学びを修正していく意識を高めることをとおして、主体的な学びを育成しようと考えた。ここでいう目的とは、教科の目標やそこから明らかになる課題と自分とをかわらせ、これから学習することが自分の生活や今後の学習に具体的にどのように役立ちそうか、これまでの学びをどう修正すれば自己をより高められるかを方向付けるものである。

ウ 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動を行うことについて

小規模校で行われる学習活動は、少人数で構成され、固定化した人間関係の中で繰り返されるため、学級での学習活動だけでは、児童の思考を多様化させ、主体的に検討し合ったり、児童相互の学び合いによって考えを練り上げ、ねらいを達成させたりする学習活動を十分行なうことは難しい。したがって、学級や学校の枠をはずした集団での学びの場を意図的に設定し、多くの考えに触れる機会を与えることによって、ものの見方・考え方を深めたり、広げたりすることが大変重要になる。

これまでも、児童の主体性を伸ばすことに主眼をおいた学級外あるいは学校外を学びの場とした学習指導方法や学習形態については、研究実践が積み重ねられ、当センターでも集合学習や交流学習における実践事例集を作成している。しかし、学びの場を学級外へと広げた学習活動の実際は、音読集会や音楽集会などの集会活動や、業間時間を活用した運動において全校による合同的な学習を行ったり、少人数のために指導が困難であった教科（例えば体育や音楽など）においてのみ学習を実施したりすることが多かった。また、学びの場を学校外へと広げた学習活動は、行事的な活動が多く、修学旅行や遠足、また、社会科見学など学校外における学習活動や体育的行事における練習等を他校と協同で行うことがそのほとんどであった。

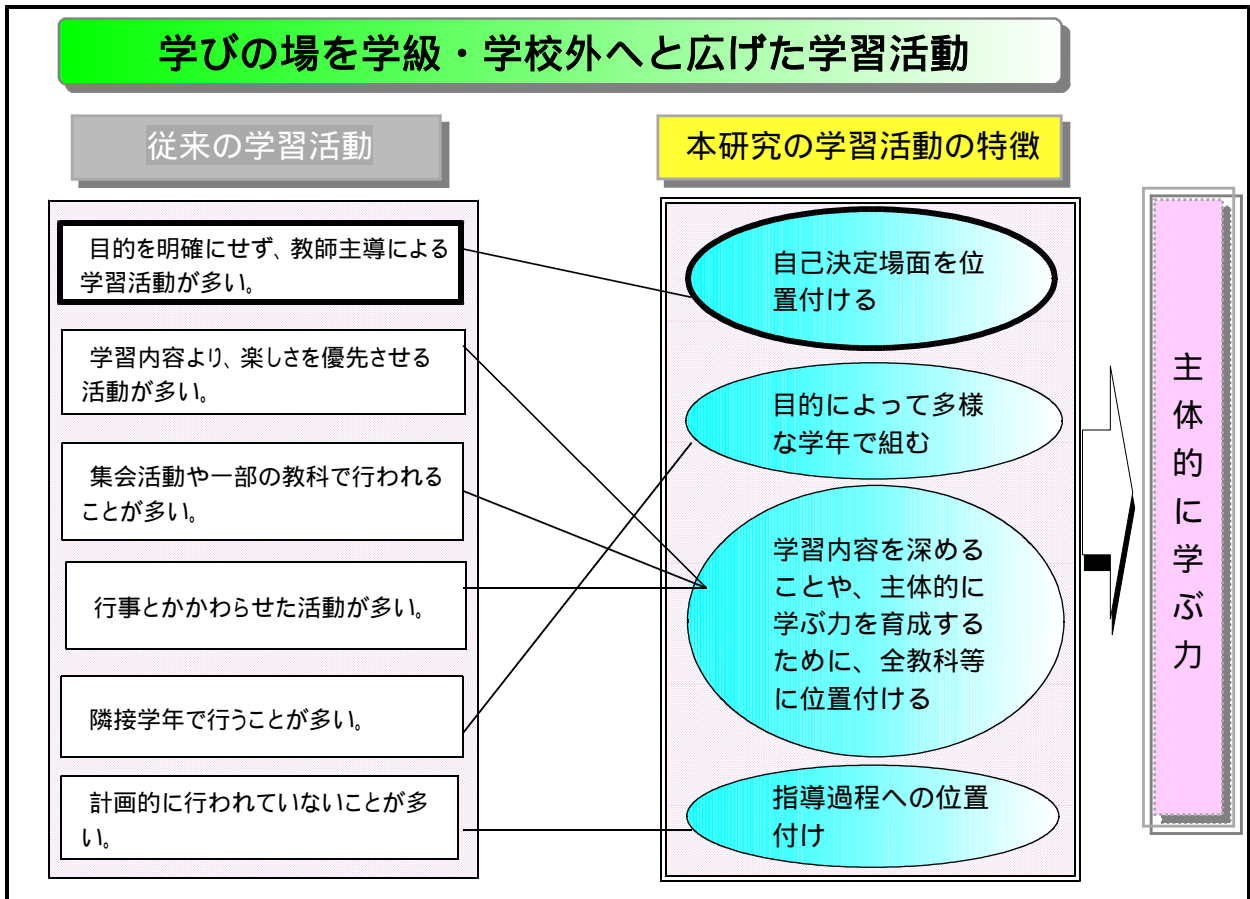
しかし、これらの学習活動は、児童の主体性を伸ばすことに目的があったにもかかわらず、意欲の面ばかりが重視され、児童に明確な目的をもたせることに関してはやや不十分であった。また、これらの学習活動に対する指導は、どちらかと言うと教師主導に偏りがちであった。

そこで本研究では、自己決定場面を指導過程に位置付けた学習指導を日常的に展開させる中に、学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動を意図的に組み入れることによって、児童の主体的に学ぶ力を育成しようと考えた。

なお、本研究で行う学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動の特徴は次頁の【図1】に示す。

エ 指導過程に自己決定場面を位置付け、学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動を意図的に組み入れる意義

自己決定の場を、学級における学習活動の中に位置付けるだけでは、主体的に学ぶ力を十分に育成できるとは言い難い。小規模校で行われる学習活動は、前述したとおり少人数で構成され、固定化した人間関係の中で繰り返されるため、学級での学習活動だけでは、児童の思考を多様化させ、



【図1】本研究における学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動の特徴

主体的に検討し合ったり、児童相互の学び合いによって考えを練り上げ、ねらいを達成させたりする学習活動を十分行なうことは難しいからである。そこで、学級や学校の枠をはずした集団での学びの場を意図的に設定し、多くの考えに触れる機会を与えることによって、ものの見方・考え方を深めたり、広げたりするために、学級を基盤にしながらも、学びの場を広げた学習活動の中に自己決定の場を位置付けること【表2】自己決定の場とそのねらいについて

が必要であると考えた。

さらに、自己決定場面を、単元全体をとおして位置付けるとともに、単位時間の中にも位置付けていくことも重要であると考ええる。自己決定の場とその

自己決定の場	ねらい
① 目的を明確にする場 (個の学習活動)	・ 知りたいことと自己との関連付けを図る ・ 学習に対する自己の目的を明確にする
② 学びに対する相互交流の場 (集団の学習活動)	・ 自己と他者の考えや学びの接点を明確にする ・ 自己の学びの修正をする
③ 学び直しを図り、新たな目的をもつ場 (個の学習活動)	・ 自己をより高めるために、学び方を振り返る → 学び直し ・ 振り返った学び方を活用して、新たな課題に取り組みようとする目的をもつ

のねらいについては【表2】に示すとおりである。

なお、具体的な位置付けについては、6頁【図3】に示す。

オ 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプラン作成の手順

(ア) 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランとは

学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランとは、小規模校の児童に主体的に学ぶ力を身に付けさせるために、児童自らが課題解決への思いを十分生かして学習できる個による学習活動と、新しい発想を生み出すことができる集団による学習活動に自己決定場面を意図的に

取り入れ、学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動の指導構想である。学習活動モデルプランは、学びの場を学級外へと広げたものと学校外へと広げたものの2プランを作成した。学習活動モデルプランの特色、概要、指導上の配慮事項、学級間・学校間連携上の配慮事項、活動の流れを示すことで指導の見通しがもち易くなり、実際の指導計画を立案・運営する上でのよりどころとなり、小規模校における主体的に学ぶ力を育成する学習指導を意図的、計画的に進めることが可能になると考えた。

(1) 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプラン作成の手順

学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランは、次のような手順で作成した。

複式指導を考慮した教科の特性を整理する
 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動のパターンの洗い出しをする
 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動に自己決定場面を位置付けた場合の学習の流れとその配慮事項を検討する

なお、ここでは についての説明は省略する。(第1年次の研究報告を参照のこと)

(ウ) 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動の四つのパターン

学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動は、様々なプランが考えられるが、本研究は、教科等の特性に焦点を当てて【図2】のように四つのパターンに分類整理した。各パターンには、単元における指導計画の中に学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動を組み入れるよさや学習活動の流れを表した。

パターン1		
適している教科	音楽、図工、体育、家庭	
活動の流れ	学級 → 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動 (合同学習・集合学習)	→ 学級
より多くの集団の中で他者の考えに共感させ、他者の考えのよさに気付かせながら多人数による活動の楽しさを味わわせたり、学習内容を深めさせたりすることができる		
パターン2		
適している教科	特別活動、道徳	
活動の流れ	学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動 (合同学習・集合学習) → 学級	→ 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動 (合同学習・集合学習)
行事等の指導で生じる少人数による弊害を解消できる。活動の計画や目標を児童に共通理解させ、多人数の中で目的を達成させるよさを味わわせることができる		
パターン3		
適している教科	生活、社会、総合的な学習	
活動の流れ	学年 → 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動 (合同学習・集合学習)	→ 学年
各学校での弾力的な指導が可能なことから、扱う教材や目標などを協働で開発し、作業的、体験的な学習をとおして、学び方や調べ方を身に付けさせることができる。学びを広げた学習活動では、異学年同士でも段階を踏みながらも、一つの目標に向かわせることができる		
パターン4		
適している教科	国語、算数、理科	
活動の流れ	学年 → 学びの場を学校外へと広げた学習活動 (集合学習)	→ 学年
学校外へ学びを広げると、同じ学年の学習集団を作ることができるという長所を生かした単学年の学習活動を取り入れることができる。学びを広げた学習活動では、学年単位で新しい発想を生み出したり、学びを深めたりする学び合いを工夫・改善するようにする		

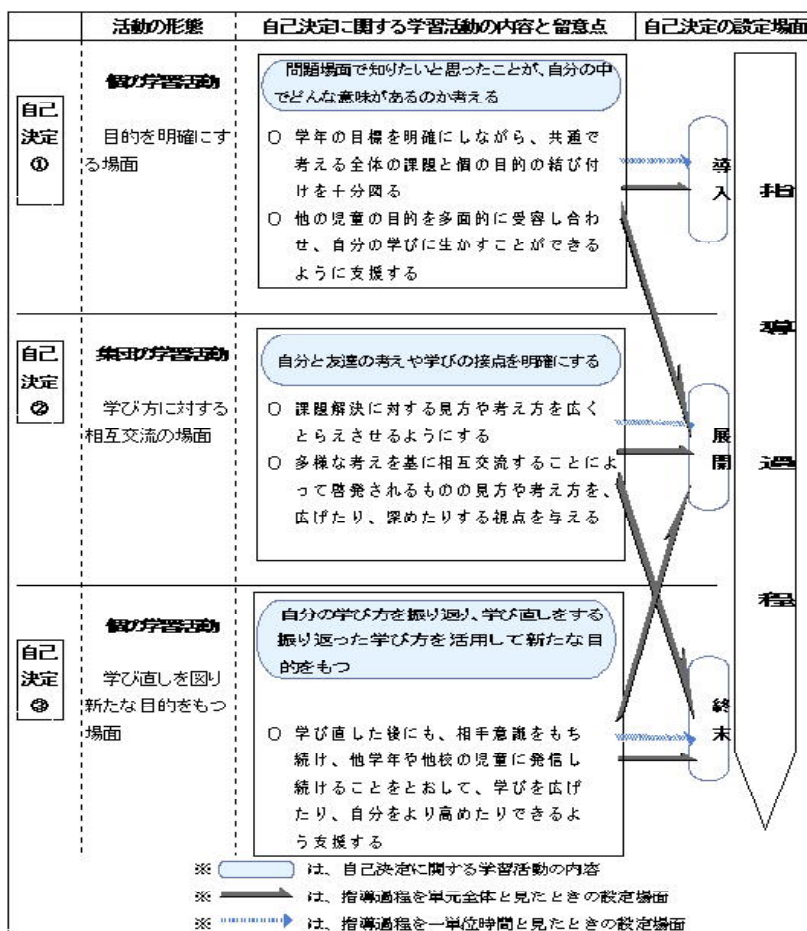
【図2】 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動の四つのパターン

カ 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動に自己決定場面を位置付けた学習活動の流れとその配慮事項

学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動に自己決定場面を位置付けた学習活動の流れとその配慮事項を【図3】のようにまとめた。

学級外（特に学校内）で協働で行う学習は、集団が異学年で構成されることから、同学年での学習集団以上に個性・能力に幅が出てくる。そのことによって、下学年は、同学年で学習する以上に意見を多面的にとらえたり、技術を学んだりする機会が増えるというよさを十分生かせるよう、自己決定場面の活動内容を吟味する必要がある。特に、自己決定 ①では、学年の学習目標を明確にしながらも、共通で考える全体の課題と個の目当ての関連付けを十分図るよう配慮することが大切である。また、自己決定 ②では、児童の課題解決に対する見方や考え方を広くとらえられるように支援していく必要がある。特に、学習集団が同一校内の児童で構成されることから、学習相手をそれまでの固定的な見方見るのではなく、お互いに認め合い、よさを発見しながら高め合っていく対象として見るができるよう支援していくことが大切である。

学校外で協働で行う学習は、学校内で協働で行う学習では構成できない同学年の人数が増えることから、教科等の同じ目標に向けて学習を展開することができる。特に、これまで活性化させにくかった学び合いの場面で効果が期待できる。



【図3】 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動に自己決定場面を位置付けた学習活動の流れとその配慮事項

そこで、自己決定を行う場合は、多様な考えと触れ合わせながら、これまでとは違った新しい考えを生み出させるよう支援することが必要である。

特に、自己決定 ②では、個の目当てを多面的に受容し合わせ、自分の学びに生かすことができるようにさせることが大切である。

また、自己決定 ③では、お互いの考えを、相互に交流することによって啓発されるものの見方や考え方を広げたり、深めたりする視点で活動に取り組みさせることが大切である。

さらに、自己決定 ③は、学びの場が学校内であっても学校外であっても、学びを振り返らせた後にも、児童に継続して相手意識をもち続けさせ、他の学年や他校の児童に発信し続けさせることによって、学びを広げたり、自分をより高めさせたりするよう支援することが必要である。

この自己決定場面を、複式指導の中に位置付ける場合、二個学年の指導過程の組み合わせ方によっては、自己決定が、間接指導の時間（一方の学年が教師と共に学習している間、もう一方の学年が自主的に学習している時間）の中で行われる場合が出てくる。そこで、間接指導の時間に自己決定させる場合の配慮事項を【表3】に示す。

学習活動モデルプランの実際については、授業実践の概要のところでも詳しく述べることとする。

【表3】間接指導の時間に自己決定させる場合の配慮事項

目的を明確にする場面	学びに対する相互交流の場面	学び直しを図り、新たな目的をもつ場面
<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入時の間接指導はさける 前時の個々の振り返りを生かし、本時の目的を明確にさせる お互いの目的に対して受容し合ったり、アドバイスし合ったりする場を設定する 	<ul style="list-style-type: none"> 交流の目的を事前にとらえさせてから、相互交流させる 他の児童の考えから、自分の考えに生かしたいことを必ず見付けさせるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 学び合いで高まった自分の姿をとらえさせるとともに、次時の学習や、生活に広げる視点を明確にしておく 単元の終末時の間接はさける

(2) 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランを活用した授業実践計画と検証計画及び調査計画

ア 授業実践計画

学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランを活用して、小規模校の児童の主体的に学ぶ力を育成する学習指導は、以下に示すような手順を進めていくこととする。また、実践の内容については、次頁【表4】に示すとおりである。

(ア) 年間構想の立案

年間構想立案の段階では、学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動を「どの教科で」「何をねらいとして」「どの時期に」行うかを明確にする。

学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動を行う教科を選択する場合は、学校規模、学校教育目標からみた児童の実態、教師一人一人の持ち味、地域との連携等を考え合わせ、主体的に学ぶ力の育成上、学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動を行った方が効果的な教科を選択する。

四つのパターンの中から、その学習活動に効果的なパターンを選択する。（本研究においては、教科の特性を考慮して四つのパターンに分けたが、教師の指導構想によってはこの限りではない。）

ねらいを設定する場合は、次のことに配慮する。

- ・学級や学校の児童の実態に応じて設定するが、同一校内で行う場合は、隣接する学年のねらい相互の関連性も考え合わせる。
- ・学校外へと学びを広げた学習活動を行う場合は、各学校の児童の実態に沿うことが大切であるが、共通して培いたい力を明確にして協働でねらいを達成させること。

(イ) 指導計画の作成

指導計画の作成に当たっては、教科において学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動を組み入れた全体計画を作成し、それぞれの学年がどの時期にどの領域で協働で学習を進めるのかが分かるようにすることで、年間の指導の見通しをもつようにする。さらに、具体的な年間指導計画を作成し、各学年のねらいがどのようにかわり合っていくのかを明記する。

(ウ) 授業実践

学習活動モデルプランを活用した具体的な指導計画に基づき、授業実践を行う。

(I) 分析と考察

下記に示した【表5】【表6】に示した検証計画と調査計画を基に手立てにかかわる分析と考察を行う。分析と考察を行う授業実践の内容は【表4】に示すとおりである。

【表4】授業実践の内容

	実践1	実践2
実践校及び実践学年	笹間第二小学校 1・2年児童 6名 3・4年児童 8名 5・6年児童 7名	花巻市立前田小学校 5・6年児童 6名 花巻市立笹間第二小学校 5・6年児童 7名
実践教科	図画工作科	算数科
実践時間	各学級6時間	各学校9時間
実践時期	9月27日～10月4日	6月29日～7月13日
単元名(題材名)	造形遊び(素材:新聞) 「怪獣がやってきた」	5年「分数のたし算とひき算を考えよう」 6年「分数のたし算とひき算を考えよう」

イ 検証計画

授業実践をとおして小規模校における主体的に学ぶ力を育成するための手立ての有効性を見るために、【表5】のような検証計画を作成した。

【表5】検証計画

検証項目	検証内容	対象	検証方法	処理・解釈の方法
主体的に学ぶ力を育成するために必要な力の育成状況	・新しい知識や技能を獲得する力 ・他者とともに考える力 ・獲得した知識や技能を基に行動を起こす力	児童	質問紙法(事前・事後)	授業前と後に意識調査を行い、分析・考察する
			観察法(発言、活動、ワークシートなど)	研究者や担任が授業中に観察した結果を基に、主体的に学ぶ力の高まりを分析・考察する
		教師	質問紙法	授業後に意識調査を行い分析・考察する

ウ 調査計画

主体的に学ぶ力を育成するための手立てが、児童や教師にどのように受け止められたかを確かめるために【表6】のような調査計画を作成した。

【表6】調査計画

調査内容	対象	調査方法	処理・解釈の方法
学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動に対する意識の状況	児童 教師	質問紙法 (児童には感想カード)	授業後に意識調査を行い、分析・考察する

2 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランを基にした授業実践と分析・考察

(1) 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランを基にした授業実践の概要

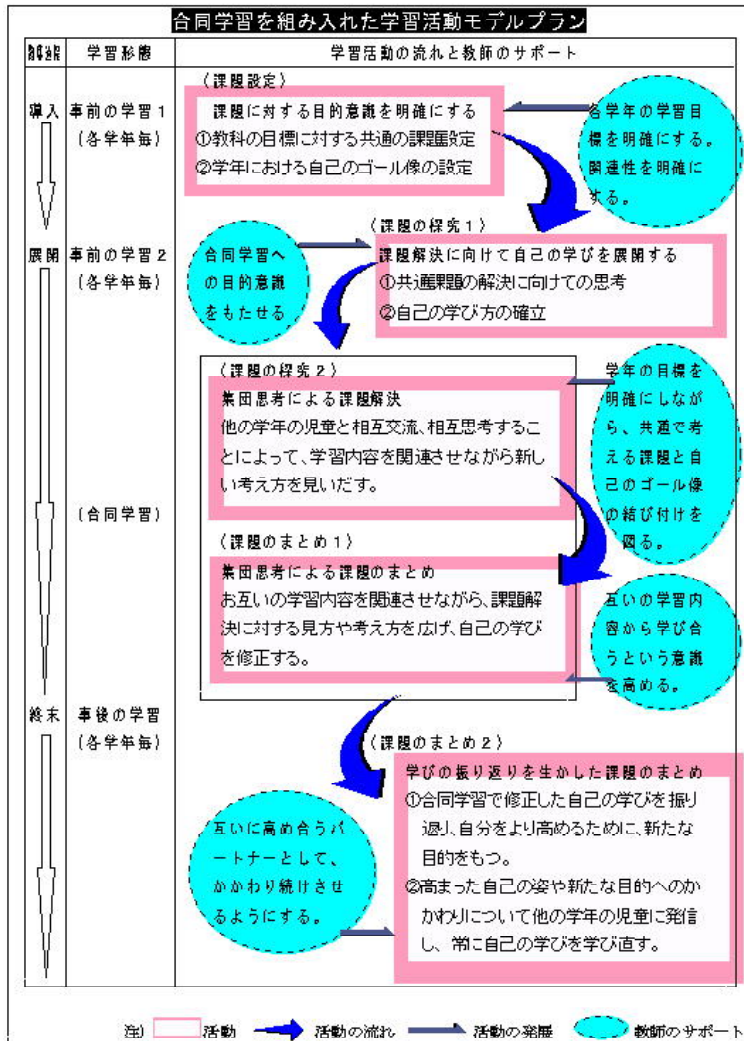
本研究では、学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランに基づき、二度の実践を行った。一つは、同一校内で学級の枠組みをはずし、全校の児童で学習集団を編成して行った合同学習、もう一つは、規模の同じ近隣の二校において同学級の児童生徒を一カ所に集めて行った集合学習である。

以下、学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動の二つの実践例について、その概要を示す。

ア 学びの場を学級・学校外へと広げた授業実践 1 の概要

(ア) 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプラン 1 (5 頁 パターン 1 活用)

昨年度作成した学習活動モデルプラン 1 の展開について【図 6】に示す。このモデルプランは、合同学習のモデルを示したものである。この学習活動を行う場合の配慮事項は、以下のとおりである。



【図 6】 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプラン 1 (合同学習)

なお、合同学習を行うに当たっては、学級間の連携も重要になる。配慮事項を以下に示す。

学級間連携上の配慮事項

合同学習を計画的に行うためには、学習環境を整備することが大切である。学年間で学習内容に関連性があり、合同学習を組み入れたことによって効果の上がる学習内容を洗い出し、整備することが必要である。また、その活動内容を年間指導計画に位置付けることによって、長期的、計画的に指導するようにする。さらに、教師の専門性を生かし、指導体制を整備することも大切である。

年間指導計画、設定したねらい、一単位時間の指導案については、補充資料に示す。

指導上の配慮事項

合同学習は、異学年の学習集団で構成されることから、同学年の学習集団以上に個性や能力に差が生じてくる。そこで、異学年集団としての長所を指導に十分生かすようにすることが必要となる。

下の学年には、上の学年の考えや技術に学ぶという意識をもたせながら、教科の学習内容の系統性に気付かせることが大切である。そして、

上の学年には、下の学年を補助するだけでなく、多様な視点からよさを進んで見付けられるようにする。

特に最高学年である 6 年生の指導に当たっては、補助的な立場にだけおくことのないよう配慮するとともに、中学校の学習内容との系統性を考慮しながら指導することも必要である。また、1 年生の指導に当たっては、補助される立場にだけおくこと主体的に学ぶ力の育成を妨げることが考えられるので、指導には十分配慮が必要である。

(イ) 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプラン1（合同学習）を基にした学習活動具体プラン
 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプラン1（合同学習）を基にして、図画工作科における題材「かいじゅうがやってきた」の学習活動具体プランを作成した。以下の【図7】にその詳細を示す。

【題材名】 「かいじゅうがやってきた」		【分野】 造形遊び		【学習主題】 材料や場の活用	【指導時数】 全6時間
指導過程	学習形態 及び時間	学習活動の流れ			自己決定に関する 配慮事項 その他の配慮事項
単元	1・2年	3・4年	5・6年		各学年の学習に 目標を明確に する。 学年によつて 学習の団性を 異なるとし、個 学集を重視す 習げるとし、個 な考慮力による 考や一層重視す 同一の学習意 目的意識へを 習的活きもせ にうにする。
導 入	事前学習 (2時間) 学級毎	課題の設定 1 題材のストーリーを知る。 ・活動の方向性を見出す 課題の追究1 2 新聞紙のもつ特徴に気付くために、新聞紙を使って思いついた方法を自在に試してみる。 ・丸める ・つなげる ・囲む	課題の設定 1 題材のストーリーを知る。 ・活動の方向性を見出す 課題の追究1 2 中に入ることができそうな身近な場所を見つける。 3 場所から感じたことを膨らませ新聞紙で囲ってみる。 ・空間を囲む	課題の設定 1 題材のストーリーを知る。 ・活動の方向性を見出す 課題の追究1 2 新聞紙のもつ特色を生かして、場所の雰囲気を変化させる面白さを楽しむ。 ・空間を囲む ・光を当てる ・風を通す	
	展 開	合同学習 (2時間) 全学年	課題の追究2 1 縦割りグループ毎に、話のストーリーからつくりたいものを発想し、テーマを決める。	課題の追究2 2 活動場所の広さや形状などを生かし、テーマに合ったものをつくって遊ぶ。 ・テーマに必要な土台づくり	
課題のまとめ1 3 同じグループの友達の行為のよさを見付け、自分の表現に生かしながら、工夫して作り足したり、作り直したりする。			課題のまとめ1 4 つくったもので遊んだり、他のグループと交流したりして作品のよさを味わう。	課題のまとめ1 4 つくったもので遊んだり、他のグループと交流したりして作品のよさを味わう。	
課題のまとめ2 1 合同学習で身に付けた表現方法を生かして、学級で新しい造形遊びに挑戦する。 ・ほかのグループの方法で囲ったり、飾ったりしてみる。 ・新聞紙でできそうな遊びを新たに考える。 ・学級の友達の発想や行為のよさを見付ける。			課題のまとめ2 1 合同学習で身に付けた表現方法を生かして、学級で新しい造形遊びに挑戦する。 ・ほかのグループの方法で囲ったり、飾ったりしてみる。 ・新聞紙でできそうな遊びを新たに考える。 ・学級の友達の発想や行為のよさを見付ける。	課題のまとめ2 1 合同学習で身に付けた表現方法を生かして、学級で新しい造形遊びに挑戦する。 ・ほかのグループの方法で囲ったり、飾ったりしてみる。 ・新聞紙でできそうな遊びを新たに考える。 ・学級の友達の発想や行為のよさを見付ける。	
事後学習 (2時間) 学級毎			課題のまとめ2 1 合同学習で身に付けた表現方法を生かして、学級で新しい造形遊びに挑戦する。 ・ほかのグループの方法で囲ったり、飾ったりしてみる。 ・新聞紙でできそうな遊びを新たに考える。 ・学級の友達の発想や行為のよさを見付ける。	課題のまとめ2 1 合同学習で身に付けた表現方法を生かして、学級で新しい造形遊びに挑戦する。 ・ほかのグループの方法で囲ったり、飾ったりしてみる。 ・新聞紙でできそうな遊びを新たに考える。 ・学級の友達の発想や行為のよさを見付ける。	課題のまとめ2 1 合同学習で身に付けた表現方法を生かして、学級で新しい造形遊びに挑戦する。 ・ほかのグループの方法で囲ったり、飾ったりしてみる。 ・新聞紙でできそうな遊びを新たに考える。 ・学級の友達の発想や行為のよさを見付ける。
終末				他学年との の交流に付 互気付け たりたりし た道具、材 や道具、材 発想や行為 のよさを現 生かすたレ 新子な課 せ。	


【図7】 学びの場を学級・学校外へと広げた図画工作科学習活動具体プラン

(ウ) 学びの場を学級・学校外へと広げた図画工作科学習活動具体プランに基づいた授業の概要
 学習活動具体プラン1に基づいた授業実践の概要を【資料1】【資料2】【資料3】に示す。

【資料1】図画工作科学習活動具体プランに基づいた授業実践の概要

C = 3・4年児童 T = 教師

本時：「かいじゅうがやってきた」の第1・2時 各学級毎における事前学習（第3・4学年）

指導過程	活動の概要と児童の反応	自己決定場面における教師の発問や支援と自己決定したカード記入例	児童が自己決定した記入例
導入	<p>1 題材のストーリーを知る</p> <p>課題 新聞紙に弱い怪獣から自分たちを守るために、新聞紙で何ができるか試してみよう。</p> <p>C2：いつもよりきっと楽しいんじゃないかなあ。 C4：うん。それに大きなものがつくれると思う。 C1：人がたくさんいるからアイデアもたくさん出てくると思う。 C3：そうか、助けたり、助けられたりできるね！</p>	<p>自己決定1</p> <p>ストーリーを知り、どんなものをつくりたいか、また、どんな力を身に付けたいかという目当てを明確にする。</p> <p>T：全校のみんなと合同で学習したら、どんないいことがありそうですか？ T：いつもは、一人でつくることが多いよね。どうしようか困るときもあるでしょ。みんなでつくる時に困ったときは？ T：そんないいことがいっぱいあるようにするために、今日自分が努力することを決めましょう。</p>	<p>自己決定1で記入したA児のカード</p> <p>アイデアを2つ以上は出す。</p> <p>教師の支援 アイデアをいっぱい出すためには、どうしたらいいかなあ？</p> <p>A児の反応 いろいろつくってみる！友達にも聞いてヒントにしようかなあ。</p>
展開	<p>2 新聞紙の特徴を感じ取る 3 新聞紙の特徴から、思いついたものをつくる</p> <p>C4：Sさんたちは、立っても入れるくらい大きくて、すごいと思いました。 C5：広いから何人でも入れるよね。3・4年生全員は入れるかも。 C6：Nくんのきちは、見た目はせまかったけど、中が広くてびっくりしました。</p>	<p>自己決定2</p> <p>自分や友達作品、行為の中から、目的に対する見方や考え方を広げる。</p> <p>T：どんなものをつくってみたいか、紹介し合ひましょう。 T：友達のつくりかたのどんなところがいいと思いましたか？</p> <p>教師の支援 どうやったら広くつくることが出来たか、その秘密を聞いてみるとういね。 T：いいなあと思ったことをカードに書きましょう。</p>	<p>自己決定2で記入したB児のカード</p> <p>Nくんのつくったきちが、二つ隠れ家があって、いいアイデアだなあと思いました。</p> 
終末	<p>4 つくったもののよさやおもしろさを感じ取る</p> <p>C7：次は、全校でやるので人数が多くても協力すればとてもすごいものができると思う。 C8：Sさん達みたいに、高いものをつくってみたいです。</p>	<p>自己決定3</p> <p>自分の学びを振り返り、新たな目的をもつ。</p> <p>T：今日の自分の目当てを振り返ってみましょう。 T：どんなことががんばれたかな？ T：どんなアイデアが参考になったかな？ T：次は、いよいよ全校でつくるけど、どんなことやってみたい？</p>	<p>自己決定3で記入したC児のカード</p> <p>出来るだけ広くしたけど、場所を間違えてつくったなあと思いました。次やる時は、場所を考えてもっと大きくしたいです。広い板を使いたいです。</p>

〔第1・2時間目の児童の様子〕

全校児童で図工を行うと、どんないいことがありそうかたずねると、「大きいものがつくれる」「協力し合える」「アイデアがたくさん出る」「楽しくできる」ことが出された。5・6年児童からは、さらに「友達のアイデアのよいところもたくさん見付けられそうだ」という考えが出たことを伝えた。児童は、これらを、合同学習ばかりではなく、単元をとおしてどんなことを目当てにしたらいいか、自己の目当て設定のよりどころにしていた。自己決定1を設定したことにより、児童は、目当てを明確にもって活動に取り組んでいたが、自己決定には慣れないため目当てを具体化させるためには教師の支援が必要であった。


【資料2】 図画工作科学習活動具体プランに基づいた授業実践の概要

C = 3・4年児童 D = その他の学年の児童 T = 教師

本時：「かいじゅうがやってきた」の第3・4時 全校による合同学習（第3・4学年を中心に）

○ 児童の反応 □ 自己決定にかかわる教師の支援 ● 児童が自己決定した記入例

指導過程 活動の概要と児童の反応 自己決定場面における教師の発問や支援と自己決定したカード記入例

導入	1 グループ毎に活動の方向性を決める	自己決定1 自分の目当てが達成するように、今日工夫することを具体化させる。 T：合同学習として皆さんが作った目当てを思い出しましょう。 (全体と自分の目当てを関連付ける) T：他の学年の人と一緒に <u>つくるので、楽しくて大きなものがつくれそうだって考えた人は、どうやったら、楽しくなるか考えてみてね。</u>	自己決定1で記入したA児のカード 協力して、アイデアをたくさん出して楽しくつくる。 教師の支援 どうすれば協力したことになるのかな？
	2 テーマにそって、およその計画を立てる 3 自分のアイデアを生かして協力してつくって遊ぶ	自己決定2 自分や友達作品、行為の中から、目当てに対する見方や考え方を広げる。 T：他の班がつくったもので遊んでみましょう。 T：何か質問したいことはない？ T：今の質問に答えながら、班でつくったものを説明しましょう。 T：説明を聞いて、アドバイスしたいことはありませんか？ T：他の班のアイデアがよく分かったけど、そのアイデアのいいなあと思ったことをカードに書きましょう。	自己決定2で記入したB児のカード 2班のきちが、2かいだてだったので、工夫しているなあと思いました。 
	C 4：3班に言いたいのですが、かいじゅうは新聞に弱いのに、飛行機の下のところがすき間が空いています。これだとかいじゅうに見つかるので、もっと新聞をつけたら安全だと思います。 D 1：2班は、2階建てになっているところがいいと思います。	自己決定3 自分の学を振り返り、新たな目当てをもつ。 T：今日の自分の目当てを振り返ってみましょう。 T：どんなことがんばれたかな？ T：どんなアイデアが参考になったかな？ T：次は、 <u>学級毎に新聞で遊ぶけど、どんなことやってみたいかな？</u>	自己決定3で記入したC児のカード 1班のはたのアイデアがよかったです。様子が見えることとぶきでうてるようにしているところもよかったです。次は、外が見えるように箱を増やしたいです。 教師の支援 休み時間や放課後を使って、アドバイスされたところをつくり足してみてね。
	4 つくったもののよさやおもしろさを感じ取る		

〔第3・4時間目の児童の様子〕
第1時に立てた自分の目当てと合同学習である本時の目当てを関連付けるために、グループの話し合いの時間を設定したことによって、児童は目当てをより具体的に設定していた。しかし、何をつくるかということに多く時間を費やし、個々の目当てを相互にかかわらせる活動を十分行わせることはできなかった。
他学年の児童の考えを効果的にかかわらせる場をアドバイスタイムとして設定したことによって、他の児童の活動を進んで見つめ質問したり、意見を言ったりする姿が見られた。また、積極的によさを見つけようとする発言も見られた。
第1・2時よりも、受けたアドバイスを基にして、自分の活動を振り返り、作りっぱなしではなく、どのように修正したらよいか考える児童が増えた。


【資料3】 図画工作科学習活動具体プランに基づいた授業実践の概要

C = 3・4年児童 T = 教師

本時：「かいじゅうがやってきた」の第5・6時 各学級毎における事後学習（第3・4学年）

○ 児童の反応 □ 自己決定にかかわる教師の支援 ■ 児童が自己決定した記入例

指導過程 活動の概要と児童の反応 自己決定場面における教師の発問や支援と自己決定したカード記入例

導入	1 本時の学習内容を知る	自己決定1	自己決定1で記入したA児のカード
	<p>課題 ぼくたち・私たちの新聞遊びをしようかしよう</p> <p>C 5：2班がつくったみたいに、何かみんなが入れるものつくりたいね。 C 3：ゲームみたいなこと出来ないかな。 C 1：私は、新聞紙で服をつかってファッションショーをしたい。</p>	<p>自分の目当てが達成するように、今日工夫することを具体化させる。</p> <p>T：前の時間に、全校でつくったとき、友達のアイデアのいいところをたくさん見つけていたね。 T：今日は、<u>見つけたよいアイデアをつかったり、自分の考えも付け足してバージョンアップさせたりして、3・4年生の新聞遊びをしよう。</u> T：<u>自分の目当てを立てよう。</u></p>	<p>みんなが見て、はっとおどろくようなものをつくる。</p> 
	2 新聞の特徴から発想を広げる 3 新しい表現方法を取り入れて、思いついたものをつくる	自己決定2	自己決定2で記入したB児のカード
	<p>C 6：Yさん達のグループがつくったぞうにアドバイスですが、いろいろなところから中に入れるように、入り口をたくさんつくってはどうか。 C 4：どこにつくる？ C 5： C 8：ここはどう？</p>	<p>自分や友達作品、行為の中から、目当てに対する見方や考え方を広げる。</p> <p>T：他のグループがつくったもので遊んでみましょう。 T：何か質問したいことはない？ T：今の質問に答えながら、グループでつくったものを説明しましょう。 T：<u>説明を聞いて、アドバイスしたいいことはない？</u> T：<u>他の人のアイデアがよく分かったけど、そのアイデアいいなあと思ったことをカードに書きましょう。</u></p> <p>教師の支援 合同学習の時にいいなあと思ったアイデアの、どんなことを今日は参考にしたんだろうね。</p>	<p>YさんとSさんとUくんのグループのゾウが、3かいだてですごくかったです。</p> <p>児童の反応 C 2：うちのグループはね、2班の竜みたいに、みんなが遊べるものをつくることにしたんだけど、そこはまねしたよね。でも、かわいいゾウにしたところが私たちの新しい考えだよ。</p>
4 つくったもののよさやおもしろさを感じ取る	自己決定3	自己決定3で記入したC児のカード	
<p>C 7：Nくんからアドバイスをもらって、がんばってパラシュートをつくりました。あんまりとばなかったの、次は家でいっぱい飛ばせるようにつくりたいな。</p>	<p>自分の学を振り返り、新たな目当てをもつ。</p> <p>T：<u>今日の自分の目当てを振り返ってみましょう。</u> T：<u>どんなアイデアが参考になったかな？</u></p>	<p>自分ががんばったところは、ゴルフのうつものうつ場所をセロハンテープでくっつけるところです。1、2、5、6年生にも教えたいです。</p>	

〔第5・6時間目の児童の様子〕

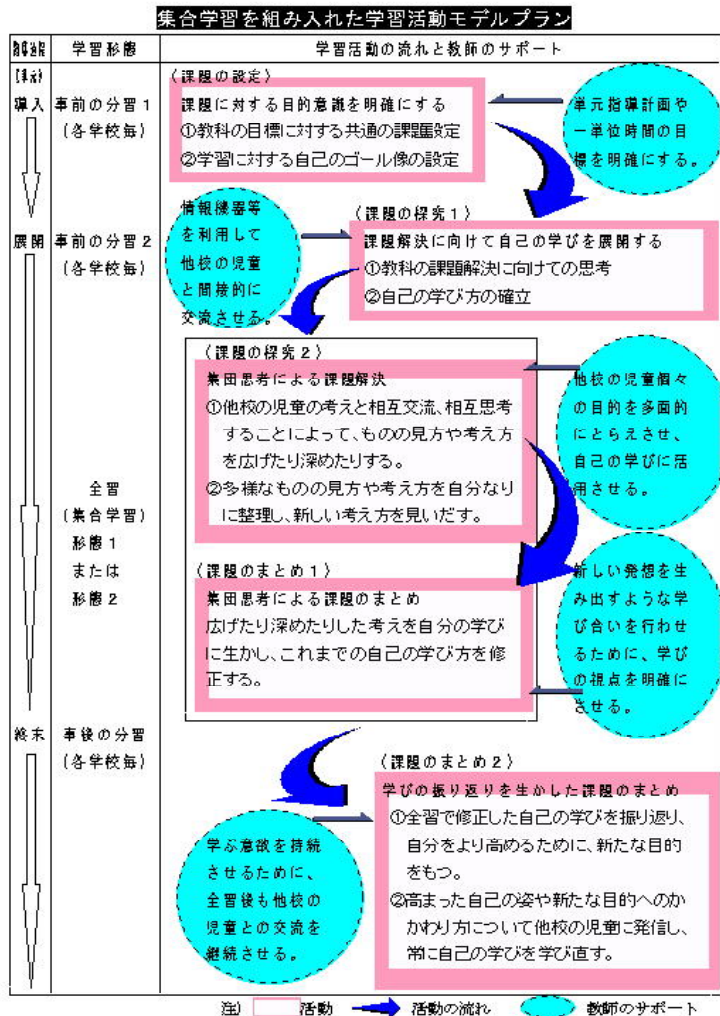
児童は、アドバイスしたり、されたりという活動を繰り返す中で、友達の考えを進んで理解しようとしたり、友達の考えを進んで取り入れようとする発言が徐々に増えてきた。

第1・2時には、家庭に帰ってから、何かをつくらうとする子はほとんど見られなかったが、第5・6時になると、自己決定3において「うちでも何かをつくりたいです。」とか、「次は工夫してもっとすごいものをつくりたいです。」「家で、動物をつくってみたいです。」「家でいっぱい飛ばせるようにつくりたいです。」というような記入をする子が増えた。

イ 学びの場を学級・学校外へと広げた授業実践 2 の概要

(7) 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプラン 2 (5頁 パタ - ン 4 活用)

昨年度作成した学習活動モデルプラン 2 の展開について【図 8】に示す。このモデルプランは、集合学習のモデルを示したものである。この学習活動を行う場合の配慮事項は、以下のとおりである。



【図 8】 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプラン 2 の展開

指導上の配慮事項

単元の指導計画や一単位時間の目標を明確にすることが、共に学ぶ学習活動を組み入れる上で大変重要になる。

さらに、児童にとって集合して行う学習（全習）のみが多様な考えに触れ合える機会ととらえるのではなく、各学校における学習活動（分習）においても、Web ページや eメールなど情報手段を使用して、間接的に交流できるようにしたり、事前の分習や事後の分習全てにおいて共に学ぶ意識を高めさせたりすることが大切になる。

全習である集合学習を、複数回実施できる場合には、ねらいを明確にして、どの段階に、どんな活動を行わせるか考えた上で、モデルプランにプラスして全習を組み入れるよう配慮する。

集合学習は、多人数による学び合いの回数を重ね経験を積み重ねる毎に、主体的に学ぶ力の育成に効果を来すものという考えに立ち、年間指導計画を工夫・改善することを大切にする。

【図 8】の形態 1、形態 2 については、第 1 年次の研究報告を参照のこと。

なお、集合学習を行うに当たっては、学校間の連携も重要になる。配慮事項を以下に示す。

学校間連携上の配慮事項

集合学習を行う上では、学校が離れていることから、指導者どうしが共通理解するまでに時間がかかることや指導分担が難しいこと、打ち合わせの時間や日程の取り方が難しいという問題がある。また、学習環境が異なることから、カリキュラムを編成することの難しさや事前・事後の学習に統一性をもたせることが難しいという問題がある。そこで、これらの問題点を解決するための一つの方法として、学校間のネットワークづくりが考えられる。育てたい児童像を共有し、学校間の教師指導体制を整えたり学習過程を共有したりして主体的に学ぶ児童を協働で育成するという意識を高めることが大切である。

年間指導計画、設定したねらい、一単位時間の指導案については、補充資料に示す。

(1) 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプラン2（集合学習）を基にした学習活動具体プラン

学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプラン2（集合学習）を基にして、算数科における第5学年「分数のたし算とひき算」、6学年「分数のたし算とひき算」の学習活動具体プランを作成した。以下の【図9】にその詳細を示す。

算数科の学習活動具体プラン


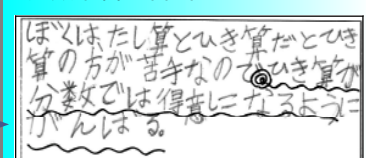
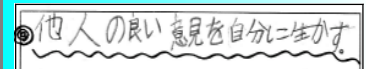
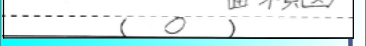
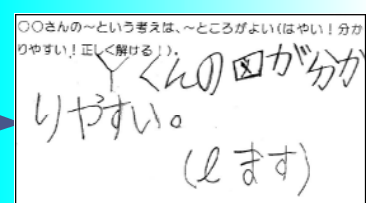
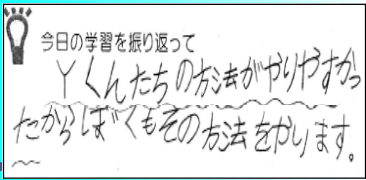
【単元名】		【領域】		【指導時数】			
第5学年 「分数のたし算とひき算」 第6学年 「分数のたし算とひき算」		数と計算		5学年（6時間）	6学年（9時間）		
指導過程	学習形態 時間	学習活動の流れ			自己決定に関する配慮事項 その他の配慮事項		
導入	分習1 各学校毎	課題の設定	課題の設定	共通目標を設定するときは、学校相互の情報交換を密にし、児童とともに学ぶ土作りをする。情報機器等を使って、児童の考えを交流させる。複式指導のよさを生かし、2個学年ペアで既習事項を想起させることで、混同していた分数の知識を、学年毎に分類整理させる。他校の児童相互の目当てを多面的にとらえられるようにする。導入と終末は複式指導のよさを生かして、展開は、学年別指導のよさを生かして展開する。学年別指導時は、教室を別して行う。			
		1 分数学習の目当てを明確にする	1 分数学習の目当てを明確にする				
		共通目標：「分数のたし算とひき算」の達人になろう					
展開	全習1 集合学習	課題の追究1	課題の追究1	他校の児童相互の目当てを多面的にとらえられるようにする。導入と終末は複式指導のよさを生かして、展開は、学年別指導のよさを生かして展開する。学年別指導時は、教室を別して行う。			
		2 2学年ペアになり、既習の分数学習を想起する					
		3 単元の学習計画を立てる	3 単元の学習計画を立てる				
展開	分習2 各学校毎	課題の追究2	課題の追究2	学校毎の学習内容を交流し合い、集合学習のときに、何を学び合いたいかが、目的をもたせるようにする。導入と終末は、共通に指導し、学年間の学習内容に関連性を見いださせる。学校毎の学習内容を交流し合い、集合学習のときに、何を学び合いたいかが目当てをもたせるようにする。導入と終末は、共通に指導し、学年間の学習内容に関連性を見いださせる。他校の児童相互の目当てを多面的にとらえ、学びの高まりを共有し合えるようにする。導入と終末は複式指導のよさを生かして、展開は、学年別指導のよさを生かして展開する。学年別指導も、同じ教室で行う。			
		複式形態	1 お互いの学習に対する目当てを理解し合う			単式形態	2 異分母分数の加法計算の仕方を考える
		単式形態	2 同分母の真分数同士の加法計算の仕方を考える			複式形態	3 お互いの考えを交流し合い、考えのよさを共有する
展開	分習3 各学校毎	課題の追究3	課題の追究3	学校毎の学習内容を交流し合い、集合学習のときに、何を学び合いたいかが、目的をもたせるようにする。導入と終末は、共通に指導し、学年間の学習内容に関連性を見いださせる。学校毎の学習内容を交流し合い、集合学習のときに、何を学び合いたいかが目当てをもたせるようにする。導入と終末は、共通に指導し、学年間の学習内容に関連性を見いださせる。他校の児童相互の目当てを多面的にとらえ、学びの高まりを共有し合えるようにする。導入と終末は複式指導のよさを生かして、展開は、学年別指導のよさを生かして展開する。学年別指導も、同じ教室で行う。			
		1 自分の目当てを明確にする	1 自分の目当てを明確にする				
		2 同分母の真分数同士の減法計算の仕方を考える	2 等しい分数の作り方を考える				
展開	分習4 各学校毎	課題の追究4	課題の追究4	学校毎の学習内容を交流し合い、集合学習のときに、何を学び合いたいかが、目的をもたせるようにする。導入と終末は、共通に指導し、学年間の学習内容に関連性を見いださせる。学校毎の学習内容を交流し合い、集合学習のときに、何を学び合いたいかが目当てをもたせるようにする。導入と終末は、共通に指導し、学年間の学習内容に関連性を見いださせる。他校の児童相互の目当てを多面的にとらえ、学びの高まりを共有し合えるようにする。導入と終末は複式指導のよさを生かして、展開は、学年別指導のよさを生かして展開する。学年別指導も、同じ教室で行う。			
		1 自分の目当てを明確にする	1 自分の目当てを明確にする				
		2 数直線などを使って大きさの等しい分数を探す	2 大きさ比べや通分の仕方を知り、減法計算の仕方を考える				
終末	5学年 次単元 各学校毎	課題の追究5	課題の追究5	全習後も、自分や自分たちの学級の学びの高まりを他校の児童に発信しようという思いをもたせ続けるように、働きかける。課題のまとめからの児童への目当てをもたせ方は、これまでの学習の定着状況を自分で振り返らせ、自分に必要な学習が何か自己決定させることによって、目当てを明確にしたり、広げたりする。			
		複式形態	1 お互いの学習に対する目的を理解し合う			単式形態	2 約分の意味と方法を考える
		単式形態	2 分母が同じ分数の大小比較の仕方を考える			複式形態	3 お互いの考えを交流し合い、考えのよさを共有する
終末	6学年 分習 5～7 各学校毎	課題のまとめ	課題のまとめ1	全習後も、自分や自分たちの学級の学びの高まりを他校の児童に発信しようという思いをもたせ続けるように、働きかける。課題のまとめからの児童への目当てをもたせ方は、これまでの学習の定着状況を自分で振り返らせ、自分に必要な学習が何か自己決定させることによって、目当てを明確にしたり、広げたりする。			
		1 自分の目当てを明確にする	1 自分の目当てを明確にする				
		2 自分の学習定着状況を振り返り、補充、発展させる	2 自分の学習定着状況を振り返り、補充、発展させる				
終末	計算のきまり 3時間	課題のまとめ2	課題のまとめ2	全習後も、自分や自分たちの学級の学びの高まりを他校の児童に発信しようという思いをもたせ続けるように、働きかける。課題のまとめからの児童への目当てをもたせ方は、これまでの学習の定着状況を自分で振り返らせ、自分に必要な学習が何か自己決定させることによって、目当てを明確にしたり、広げたりする。			
		1 自分の目当てを明確にする	1 自分の目当てを明確にする				
		2 分数カードゲームで学習内容を深める	2 分数カードゲームで学習内容を深める				
終末	計算のきまり 3時間	課題のまとめ3	課題のまとめ3	全習後も、自分や自分たちの学級の学びの高まりを他校の児童に発信しようという思いをもたせ続けるように、働きかける。課題のまとめからの児童への目当てをもたせ方は、これまでの学習の定着状況を自分で振り返らせ、自分に必要な学習が何か自己決定させることによって、目当てを明確にしたり、広げたりする。			
		1 自分の目当てを明確にする	1 自分の目当てを明確にする				
		2 復習をする	2 復習をする				

【図9】 学びの場を学級・学校外へと広げた算数科の学習活動具体プラン

(ウ) 学びの場を学級・学校外へと広げた算数科学習活動具体プランに基づいた授業の概要

【資料4】算数科学習活動具体プランに基づいた実践授業の概要

Cの数字は、学年を表す。

本時：単元名「分数のたし算とひき算」の第5時 5・6年生で行った2回目の集合学習（6年生の授業の概要）	
指導過程	活動の概要と児童の反応
	<p>児童の反応</p> <p>自己決定にかかわる教師の支援</p> <p>児童が自己決定した記入例</p>
<p>共通導入</p> <p>展開</p> <p>学年別指導</p> <p>共通終末</p>	<p>1 課題を確認する</p> <p>課題 通分のしかたを工夫しよう</p> <p>2 本時の問題を把握する</p> <p>3 解決の見通しをもつ</p> <p>C5：ぼくの目当ては、進んで発表するです。 C6：私の目当ては、計算のやりやすい方法を見つけるです。</p> <p>4 課題を解決する（個人）</p> <p>5 課題を解決する（集団）</p>  <p>6 課題をまとめる</p> <p>7 練習問題を解く</p> <p>8 学習内容の関連性を見つける</p> <p>9 自己評価・相互評価する</p> <p>C3：A小学校のくんの発表の仕方が、分かりやすかったです。 C6：目当てをしっかりと達成させることはできませんでした。みんなの図が、分かりやすくて参考になりました。</p> <p>10 次の学習課題を確認する</p>
	<p>自己決定1（共通導入の場で）</p> <p>自分の目当てが達成するように、今日工夫することを具体化させる。</p> <p>T：前の時間に、この単元を通しての自分の学習の仕方の目当てをつくりましたね。</p> <p>T：友達は、こういう目当てでがんばっているんだなあと<u>言うことを分かってあげましょう。</u></p> <p>T：そのことについて、振り返りのときに感想を言ってあげるのもいいですね。</p>
	<p>自己決定1で記入したカード</p> <p>単元全体をとおして立てた児童の目当て 分数学習の目当て</p>  <p>学び方の目当て</p> 
	<p>自己決定2（6学年の様子）</p> <p>他者の考えからもの見方や考え方を広げる。</p> <p>T：自分の解き方を振り返ってみましょう。</p> <p>教師の支援</p> <p>自分の方法で解くことができましたか？ もっとよい方法がありそうですか？</p> <p>T：友達の考えを参考にして、もっとよく解くために気が付いたことはありますか？</p>
	<p>自己決定2で記入したカード</p> <p>自力解決直後に振り返った自分の学びの状況</p> <p>自分の方法で、解決することはできたけれど、もっとよい方法がありそうだなあ。面積図</p>  <p>学び合い後に振り返った自分の学び</p> 
	<p>自己決定3（共通終末の場で）</p> <p>学び直しを図り、新たな目当てをもつ。</p> <p>T：それぞれの学年でどんなことを学習したのか発表しましょう。</p> <p>T：今日の自分の目当てを振り返ってみましょう。</p> <p>T：次の学習で、自分の学び方をもっとよくするために、工夫したいことはありますか？</p> <p>教師の支援</p> <p>どうやったら達成できるか考えなければね。</p>
	<p>自己決定3で記入したカード</p> <p>今日の学習を振り返って</p> <p>Yくんたちの方法がやりやすかったからぼくもその方法をかります。</p> 

〔単元全体の児童の様子〕

児童は、事前から、他校の児童と一緒に学ぶことに対して強い興味を示していた。自己決定2では、第1回目の集合学習のときよりも、第2回目の集合学習のときの方が、他校の児童の考えのよさに目を向けた発言が多く見られた。また、各校毎の分習では、自分たちの考えた解き方を他校の児童に伝えようとする意識が高まっていることが、自己決定カードの記入から読み取れる。自己決定場面を位置付けた指導過程での学習経験を積み重ねる毎に、自己決定1の場面で自分の学びの目当てを明確にし、それに向かって努力しようとする姿が増えていった。しかし、目的が達成されなかった場合、どのように工夫するかまで考えようとする児童は少なく、配慮が必要であると感じた。

- (2) 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランを基にした授業実践の分析と考察
主体的に学ぶ力の構成要素である「新しい知識や技能を獲得する力」「他者とともに考える力」「獲得した知識や技能を基に行動を起こす力」について、8頁の検証計画に従って、分析と考察を行う。

ア 主体的に学ぶ力にかかわる授業実践の分析と考察

(ア) 「新しい知識や技能を獲得する力」の育成状況について

実践の概要1(合同学習)で変容を追っていったA児が、この単元をとおして身に付けたかった力は、「アイデアをたくさん出す力」であった。第1・2時には、「アイデアを2つ以上は出す」という目当てを立てたが、それはあくまでも自分でアイデアを出すことに限っていた。学級の枠組みをはずして行った第3・4時は、「協力してアイデアをたくさん出して楽しくつくる」という目当てを立てた。この目当ての内容から、A児は、多人数の中でアイデアをたくさん出すためには、協力することが必要なこと、また、アイデアをたくさん出すことによって楽しいものを作ることができるであろうということに気付いたことが分かる。A児は、この目当てに向かって他の学年の児童に自分のアイデアを伝えたり、他の児童のアイデアを聞いたことにならずきながら自分たちの基地を新聞で囲んでいた。学級毎の学習活動であった第5・6時では、「みんながはっとおどろくようなものをつくる」という目当てを立てた。個々の活動であったにもかかわらず、自分だけで満足するものではなく、相手を強く意識した目標をもってつくろうとしていることが分かる。A児は、第3・4時に他のグループのアイデアを基に発想を広げ、場所の特徴に合わせて自分らしい表し方で新聞を使った新たな遊びを思いつき、つくることができていた。

A児がこのように変容したのは、これまで、何をつくるかとか、どんな材料にするかというような学習内容にかたよった目当てに到達させる指導を行うことが多かったことに対して、本実践では、単元の導入時に自己決定1の場面を設定し、自分の学び方にも目を向けさせる指導を積み重ねたことと学級の枠組みをはずして、学びの場を広げたことによって、自分の考えと他の児童の考えをかかわらせて学び方を高めようとする意識が高まり、積極的に活動に取り組むことができたものと思われる。

実践概要2(集合学習)でも、単元全体をとおして同じ目標で「学ぶ 振り返る」ことを積み重ねた。その結果、同じ視点で自分の学びを振り返り、振り返ったことを生かしながら自分の目当てを達成させるために意欲的に学習に取り組む姿が見られた。また、学級の枠組みをはずし、学校外の友達と学ぶことによって、同じ学年どうして目当てを共有し合いながら分数の加減計算についての考えを深めることができていた。また、単元末のテスト結果では、ほとんどの児童が目標到達度を超える点数を獲得できた。

次頁【表7】に示した児童に行った意識調査の結果から、「新しい知識や技能を獲得する力」に対する意識は、プラスの回答をしていた児童の割合が実践1では57.1%から100%に、実践2では50.0%から75.0%に増えた。このことから、自己決定場面1を設定して目当てを明確にさせたことは、児童自身の意識を高めたと言える。

これらのことから、自己決定場面1を設定したことと、学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動を行ったことは、児童自身に明確な目的意識をもたせ続けながら課題解決に自主的に取り組ませ、教科の知識や技能を身に付けさせる上で、有効であったと考える。

ただし、図画工作科と算数科では目的意識のもたせ方に違いがあった。算数科は、教科内容に対する目的と自分の学び方に対する目的を比較のもちやすかったが、図画工作科のしかも造形遊びとなると、活動の中で目的が変わる可能性も出てくる。よって、教科や単元（題材）の特性によっては、目的のもたせ方について課題が残った。

(1) 「他者とともに考える力」について

多様な考えに進んでかかわり、他者とともに新しい考えを生み出させるために、自分の方法では、最後まで解くことができなかった、自分の方法で解決することはできたけれど、もっとよい方法がありそうだ、自分の方法はとてもよい方法だから友達にも教えたい、のいずれの状況なのかをカードを用いて明確にさせた。そして、解決の状況を明確にしたことを基にして、児童個々に学び合いの視点を明確にさせたり、学びを修正させたりした。

【資料5】は、カードの一部を抜粋したものである。カードの記入から、児童はそのときの自分の解決状況を判断して、学び合いのときに、他の児童の考えとどのようにかかわればよいかの視点を明確にし、その後の自分の学びを修正していることが分かる。

また、「A子さんの考えを使えば～」のように、他校の児童の解き方のよさに気づき、自分の考えでは途中までしか解くことのできなかつた問題を、最後まで解き進めることができた児童も多かった。

実践1（合同学習）で変容を追っていったB児は、第3・4時に全校で行った学習活動中の交流場面で、他のグループのアイデアのよさに気づき、さらに、そのよさを第5・6時に行った学習活動で、自分の活動に生かしていた友達に気付いたことが、カード記入から読み取れる。このことから、B児は、単にアイデアのよさに気付いただけではなく、そのよさを生かしている他の児童のよさにも気付いたことから、自分の活動から友達の活動に視野が広がったことが分かる。

次頁【表8】に示した児童に行った意識調査の結果から、「他者とともに考える力」に対する意識は、プラスの回答をしていた児童の割合が実践1は69.0%から90.4%に、実践2では64.3%から85.7%に増えた。このことから、自己決定場面2を設定して多様な考えにかかわらせたことは、児童自身の意識を高めたと言える。

【表7】児童の意識調査の結果1

「新しい知識や技能を獲得する力」に関する児童の意識の変容
(設問内容)
「明確な目的意識をもち、課題に自主的に取り組んでいますか」

児童の意識の状況(%)	実践1		実践2	
	事前	事後	事前	事後
プラス回答をしている割合	57.1	100	50.0	75.0
マイナス回答をしている割合	42.9	0	50.0	25.0

(注1) 回答は、四択選択とし、アとイはプラス回答、ウとエはマイナス回答と判断する。
(注2) 対象児童は、実践1（合同学習）が21名、実践2（集合学習）が14名である。

【資料5】自己決定場面2で活用したカードの例

自分の方法では、最後まで解くことができなかったなあ。

()

〇〇さんの考えの～なところを参考にすれば、最後まで解けそう！次は、～考えで解いてみよう。

A子さんの考えをつかえば解けそうです。

面積の方でやった方がよかったです。

自分の方法で、解決することはできたけれど、もっとよい方法がありそうだなあ。

()

〇〇さんの～という考えは、～ところがよいはやく！分かりやすい！早く解ける！。

方法はよいかもしれないけど、もっとみんなに伝わりやすいやり方があったかもしれない。

自分の方法は、とても方法だから、友達にも教えたいなあ。

()

〇〇さんの考えと、～というところが似ているなあ。次は、こういう考えもプラスしてみたいなあ。

この考えを使えば同じ大きさの分数をいはいさせられる。

A子は、このカードを記入した児童とは別の学校の児童である。

これらのことから、自己決定場面2を設定したこと、学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動を行ったことは、多様な考えに進んでかわり、他者とともに新しい考えを生み出そうとする児童の育成に有効であったと考えられる。

【表8】児童の意識調査の結果2

「他者とともに考える力」に関する児童の意識の変容
(設問内容)
「友達のと進んで比べ、新しい解決方法を発見しようと思いませんか」

児童の意識の状況 (%)	実践1		実践2	
	事前	事後	事前	事後
プラス回答をしている割合	69.0	90.4	64.3	85.7
マイナス回答をしている割合	31.0	9.6	35.7	14.3

(注1) 回答は、四肢選択とし、アとイはプラス回答、ウとエはマイナス回答と判断する。
(注2) 対象児童は、実践1(合同学習)が21名、実践2(集合学習)が14名である。

(ウ) 「獲得した知識や技能を基に行動を起こす力」について

実践1(合同学習)で変容を追っていったB児は、自己決定3で学びを振り返ることによって、第1・2時では、次時にどこを修正したらよいか見通すことができていた。その時記入したカード内容から「広い板を使いたい」というように、次時への活動に対して意欲的に考えていることが分かる。B児はこの時間に、新聞を他の材料と組み合わせることのよさに気づき、次時には、広い板の代わりに見つけた段ボールを使って基地の土台をつくる活動に取り組んだ。さらに、学びの場を広げた第3・4時後に行った学級毎の活動では、自己決定3で記入したカードに、自分たちの活動を「1, 2, 5, 6年生にも伝えたい」というように、学びを他学年に発信しようとしていることが分かる。

実践2(集合学習)では、学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動後の児童は、自分たちの解き方を他校の児童に伝えたい、あるいは、他校の児童の考えを知りたいという気持ちが高まり、解決方法を記入したプリントを交換し合う児童が見られた。

これは、一単位時間の終末の段階に、自己決定3を設定し、これまでの自分の学びを振り返って新たな目標をもたせた指導を行ったことによって、学びを深めたり、広げたりしようとする意識が高まったものと思われる。また、学びの場を学校外へと広げたことによって、他校の児童の考えに関心を持ち、お互いの考えのよさを比較することによって自分たちの学びが深められることに気付いたものと思われる。

【表9】に示した、児童に行った意識調査の結果から、「獲得した知識や技能を基に行動を起こす力」に対する意識は、プラスに回答している児童の割合が、実践1は57.1%から92.9%に増えたのに対して、実践2では92.9%から71.4%に減った。実践2で、なぜ児童の意識が低下したのかその理由を児童に聞いてみたところ、分数という単元が原因であることが分かった。

【表9】児童の意識調査の結果3

「獲得した知識や技能を基に行動を起こす力」に関する児童の意識の変容
(設問内容)
「学んだことを基にして、その後の学習や生活で活用しようと思いませんか」

児童の意識の状況 (%)	実践1		実践2	
	事前	事後	事前	事後
プラス回答をしている割合	57.1	92.9	92.9	71.4
マイナス回答をしている割合	42.9	7.1	7.1	28.6

(注1) 回答は、四肢選択とし、アとイはプラス回答、ウとエはマイナス回答と判断する。
(注2) 対象児童は、実践1(合同学習)が21名、実践2(集合学習)が14名である。

この力に関する調査項目は、「あなたは、ふだんの生活の中で、これは学校で学習したことを使えば学習できそうだ。」「学校で学習したことを基にして、家でもやってみようと思うことがありますか。」という内容であった。児童は、分数で表された事象を身近な生活の中であまり見付けることができなかつたために、学習したことを生活に広げることが難しく、事前よりも意識を低下させてしまったようである。実践後、分数を生活に生かすよさを補充したが、教科や単元(題材)の内容によっては、学習した内容と生活の結び付け

に配慮が必要なものもあることが明らかになった。

これらのことから、自己決定場面3を設定したこと、学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動を行ったことは、自分の学び方を修正したり、進んで学級・学校外へ学びを広げようとする児童を育成することに有効であったと考えられる。

ただし、教科や単元によっては、自己決定3を行う場合に、教師の支援のあり方について課題が残った。

このように、課題は残ったものの、主体的に学ぶ力の構成要素である「新しい知識や技能を獲得する力」「他者とともに考える力」「獲得した知識や技能を基に行動を起こす力」は、おおむね育成されたものと思われる。

イ 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動にかかわる児童と学級担任等の意識の分析と考察

主体的に学ぶ力を育成するための手立てが有効であったかについて、教師には、8頁の【表5】に示した調査内容と方法、【表10】【表11】に示した設問内容によって、また、児童には、実践後に記述させた感想カードによって意識調査を行った。

教師の意識調査の結果は、以下のとおりである。

主体的に学ぶ力を育成するために自己決定が有効であると思われた項目は、全て選択されたが、特に有効であった項目として選択されたのは、イ、エ、オ、カであった。このことから、自己決定場面を設定することは、主体的に学ぶ力を育成する上で効果があったと受け止められたことが分かる。特に、目当てをより具体的にもたせて課題解決に自主的に取り組ませることができる、多様な考えに進んでかかわらせ自己と他者の考えやよさを明確にすることができる、さらに、自己をより高めるために、学び方を振り返ったり、他者の考えから自己の学びを修正したりして新しい発想を生み出すことができるというよさがあったと受け止められた。しかし、「目的を明確にしたり、振り返ったりすることは大変重要であるし効果も出たが、一単位時間に位置付けた場合、毎時間では時間的に苦しいこともある。」「学びを相互交流する

場では、人数が増えても教師に頼ろうとする意識は変わらなかった。」という意見があったことから、自己決定1と2の位置付け方を見直す必要があると思われる。また、学びを交流する場面で多くの考えとより積極的にかかわらせるように、支援の仕方を工夫する必要があると思われる。

学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動が有効であると思われた項目は、ア、イ、ウ、オであった。しかし、エについては、自分の学びを修正する必要があるのかどうか分からない児童がいたという担任教師の意見があったことから、全体で学びを振り返るときに、学年に応じた支援が必要であると思われる。

学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動に

【表10】教師用設問内容1

Q	自己決定場面を取り入れた学習活動において、主体的に学ぶ力の育成に有効であったと思われる項目はどれですか
A	単元をとおして学習の仕方に対する目的を明確にすること
イ	本時の学習内容や学習の仕方の具体的なめあてを明確にすること
ウ	学習内容や学習の仕方に対する自己の目的を継続してもつこと
エ	自己と他者の考えやそのよさを明確にすること
オ	他者の考えから自己の学びを修正すること
カ	自己をより高めるために、学び方を振り返ること
キ	振り返った学び方を活用して、新たな課題に取り組もうとする目的をもつこと

【表11】教師用設問内容2

Q	学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動において、主体的に学ぶ力の育成に有効であったと思われる項目はどれですか
A	他学年や他校の児童の考えと相互に交流することによって、ものの見方や考え方を深めたり広げたりすること
イ	多様なものの見方や考え方を自分なりに整理し、新しい考え方を思い出すこと
ウ	広げたり深めたりした考えを自分の学びに生かし、これまでの学び方を修正すること
エ	修正した自己の学びを振り返り、自分をより高めるために、新たな目的をもつこと
オ	高まった自己の姿や新たな目的へのかわり方について、他に発信しようとする

対する児童の意識を調査した 【資料5】 児童の感想

結果、実践1・2それぞれに【資料5】に示した記述が見られた。この記述から、児童は、多くの考えに触れることによって、自分の考えが広がることのよさや、自分の考えを認められることへの安心感を感じ取っていることが分かる。また、学級で学習して

(実践1〔合同学習〕)後の児童の感想
<ul style="list-style-type: none"> ・大きいものをつくらせて楽しかったです。1・2年生だけでは、あんなのをつくれなかったと思います。 ・他の学年と勉強すると助け合ったり、アイデアがいっぱい出たりして、一人でやるよりももっとおもしろくて、毎日続けたくまりました。それに、1・2年生も私たちの思いつかないアイデアを出してすごいなあと思いました。 ・それぞれの考えを出して話し合ったり、まとめ合ったりできたのでちょっと時間はかかったけど、いいものが見つかりました。1年生から6年生まで一緒にやるとやる気も出ました。

(実践2〔集合学習〕)後の児童の感想
<ul style="list-style-type: none"> ・A校の人も、自分の考えと同じだなあと安心できた。 ・自分たちだけでは思いつかない解き方を知ることができた。 ・日校の人の説明を参考にしたら、自分も人に分かりやすく説明できた。 ・いろいろな考えを聞いているうちに、友達の考えを理解できるようになった。 ・他の学校の先生と学習したら、ふだんの授業とは違う緊張感があってよかった。 ・人数はやっぱり多い方がいいと感じた。 ・気分転換できたし、「がんばれ」とか応援してもらってやる気が出てきた。

いるときよりも、自分の存在感が大きいと感じている児童もいた。

これらのことから、学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動は、教師と児童に肯定的に受け止められていると言える。

3 小規模校における主体的に学ぶ力を育成する学習指導に関する研究のまとめ

本年度の目標は、小規模校において、学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランに基づいた授業実践計画と検証計画及び調査計画を立案する。また、学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランを活用した授業実践とその結果の分析・考察をとおして、主体的に学ぶ力の育成状況を検証し、小規模校における主体的に学ぶ力を育成する学習指導に関する研究のまとめを行うことである。

ここでは、それらの研究内容の成果と課題について総括的にまとめる。

(1) 成果

ア 指導過程に、目的を明確にする自己決定場面1を設定したことによって、単元全体をとおして自己の学びが高まる様子を児童自身に把握させることができた。特に、自己の学び方についての目当てをもたせたことは、児童自身の活動だけではなく、他の児童の活動にも目を向けさせ、自己の学び方を振り返って修正することに役立たせることができた。

イ 学びに対する相互交流を図る自己決定場面2を設定したことによって、他の児童の考えのよいところを進んで見つけようとする児童が増えた。特に、算数科で行った自己決定2は、自力解決後に自分の解決の状況を判断させたことによって、学び合いの場面で自分が何を目的にしてかわればよいのか明確にさせることができた。このことによって、児童に、他の児童の考えのよさを自分の課題解決に生かす指導を行うことができた。

ウ 学び直しを図り、新たな目的をもつ自己決定場面3を設定したことによって、これまであまり学習した内容を生活と結びつけたり、継続して考えようとしたりする事の少なかった児童に、進んで学びを広げようとする意識をもたせることができた。特に、図画工作科では、自分の学級の学びを他の学級の児童に伝えたい、学びを家庭でも継続させたいという思いを強くもたせることができた。

エ 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動を行ったことによって、児童に意欲をもって学習に取り組ませることができた。特に、学校の枠をはずして行った集合学習で、児童は、「自分の考えと同じ人がいてほっとした。」「いつもの自分より楽しんで学習している自分がいた。」「もっといろいろな教科と一緒に学習すれば、たくさんのが分かりそうだ。」という感想を話していたことから、同じ学年の多くの考えに触れさせることで、少人数の学習では味わえないよさを感じ取らせることができ、学習内容の習得に役立たせることができた。

(2) 課題

ア 教科や単元によって、自己の目的を修正したり、学びを広げたりすることに戸惑いを見せた児童がいたことから、自己決定の場で行う教師の支援を、教科や単元の特性に沿ってより具体的に示すことが必要である。

イ 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動の中で相互交流する場合、かかわる児童の人数が増えても、教師に頼ろうとする児童の意識が高かったことから、自己決定2の場を位置付けるだけでなく、交流の仕方について指導することが必要である。

以上のことから、課題はあるものの、本研究で作成した「学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプラン」を活用した授業を行うことは、小規模校における主体的に学ぶ力を育成する上で有効である、小規模校の指導充実に役に立つものであるという見通しをもつことができた。

研究のまとめ

この研究は、小規模校の特性を生かし、学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランを作成することとおして、主体的に学ぶ力を育成する学習指導の改善に役立てるものである。

2年次研究の第1年次である昨年度は、主体的に学ぶ力を育成する学習指導についての基本的な考え方を検討するとともに、基本構想を立案し、学習活動モデルプランを作成した。

第2年次である今年度は、昨年度の基本構想に基づいて検証計画を作成し、学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランに基づいた授業実践結果の分析・考察をとおして、小規模校における主体的に学ぶ力を育成する学習指導に関する研究のまとめを行った。

2年間の研究の成果と課題については、以下のようにまとめることができる。

1 研究の成果

(1) 小規模校における主体的に学ぶ力を育成する学習指導に関する基本的な考え方の検討

主題にかかわる先行研究や文献により、小規模校におけるこれまでの学びの現状と主体的に学ぶ力を育成するための小規模校の特性を明らかにすることができた。このことによって、小規模校の児童が主体的に学ぶ姿を具体化することができたとともに、学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動の必要性を明らかにすることができた。このように、小規模校における主体的に学ぶ力を育成する学習指導に関する基本的な考え方を明らかにし、小規模校における主体的に学ぶ力を育成する学習指導について検討することができた。

(2) 小規模校における主体的に学ぶ力を育成する学習指導について基本構想の立案

小規模校における主体的に学ぶ力を育成する学習指導についての基本的な考え方にに基づき、主体的に学ぶ児童の具体的な姿を実現するために、自己決定場面を位置付けた指導過程の必要性を明らかにすることができた。また、自己決定場面の指導過程への位置付け方や学びの場を学級・学校外へと広げた合同学習・集合学習へ取り入れる視点に基づき、学習活動モデルプラン作成の見通しをもつことができた。このように、小規模校における主体的に学ぶ力を育成する学習指導に関する基本構想を検討し、立案することができた。

(3) 学習活動モデルプランの作成

基本的な考え方と基本構想で述べた視点を基に、複式指導を加味した教科等の特性を明らかにし、合同学習と集合学習を組み入れた学習活動モデルプランの指導のねらい、活動の内容と流れ、活用するに当たっての学級・学校間連携上の配慮事項についての検討を進め、二つの学習活動モデルプランを作成することができた。

(4) 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランに基づいた授業実践計画と検証計画及び調査計画の立案

学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランを活用して、小規模校の児童に主

体的に学ぶ力を育成する学習活動を進める手順を明確にし、算数科と図画工作科の授業実践計画と検証計画及び調査計画を立案することができた。

- (5) 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランを基にした授業実践と分析・考察
学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランを基にした授業実践を行い、その分析・考察を行うことをとおして、指導過程に三つの自己決定場面を位置付け、学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動が、小規模校の児童に主体的に学ぶ力を育成する上で有効であることが分かった。
- (6) 小規模校における主体的に学ぶ力を育成する学習指導に関する研究のまとめ
学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランを活用した授業を行うことは、小規模校における主体的に学ぶ力を育成する上で有効であり、小規模校の指導充実に役に立つものであるという見通しをもつことができた。

2 今後の課題

- (1) 学びの場を学級・学校へと広げた学習活動モデルプランを活用した授業のあり方を、他の教科で実践し、主体的に学ぶ力を育成する上で自己決定場面の配慮事項を再検討すること。
- (2) 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動の4つのパターンに適した教科で、学習指導の流れとその配慮事項を明らかにすること。

おわりに

この研究を進めるに当たり、ご協力いただきました研究協力校の先生方に心から感謝を申し上げます。

【参考文献】

- 阿部真由子(2003),『小規模校における学ぶ意欲を高める指導方法と学習形態に関する研究』,岩手県立総合教育センター
- 鹿毛雅治編(1997),『学ぶこと・教えること』,金子書房
- 全国教育研究所連盟(1993),『個を生かす教育の実践上・下』
- 全国へき地教育研究連盟(1998),『21世紀を拓く教育シリーズ 学習指導方法の工夫・改善』
- 全国へき地教育研究連盟(1999),『21世紀を拓く教育シリーズ 効率的な学習指導と学校・学級経営』
- 全国へき地教育研究連盟(2000),『21世紀を拓く教育シリーズ へき地・複式・小規模学校Q & A』
- 全国へき地教育研究連盟(2001),『21世紀を拓く教育シリーズ ふるさと発『生きる力』を育む教育の創造』
- 村上政悟、紺野盛(2000),『複式指導実践事例集 ~集合学習・交流学习の実践事例~』,岩手県立総合教育センター
- 紺野盛(2001),『複式指導実践事例集 ~学年別指導・同単元指導の実践事例~』,岩手県立総合教育センター

学びの場を学級・学校外へと広げた 学習活動の進め方

岩手県立総合教育センター

目次

なぜ、小規模校の児童に「主体的に学ぶ力」を育成することが必要なのですか？	1
自己決定は、どのように行わせればいいのですか？	2
学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動には、どんなことがありますか？	4
学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランって何ですか？	5
学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランを活用した授業の進め方	6
1 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプラン1の実践紹介	
合同学習を組み入れた学習活動モデルプラン	6
合同学習を組み入れた学習活動モデルプランを活用する場合の配慮事項	7
ねらいの設定	8
全体計画の作成	9
年間指導計画の作成	10
学習活動モデルプランの具体化	11
指導案の作成	12
自己決定に活用する学習プリント例	15
2 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプラン2の実践紹介	
集合学習を組み入れた学習活動モデルプラン	16
集合学習を組み入れた学習活動モデルプランを活用する場合の配慮事項	17
ねらいの設定	18
年間指導計画の作成	19
単元指導計画の作成	20
学習活動モデルプランの具体化	21
指導案の作成	22
自己決定に活用する学習プリント例	30
資料1 児童用アンケート用紙	32
資料2 教師用アンケート用紙	38
資料3 図画工作科全体計画	40
資料4 図画工作科合同学習年間指導計画	42
資料5 集合学習単元指導計画	44

なぜ、小規模校の児童に「主体的に学ぶ力」を育成することが必要なのですか？

小規模校では、学級を構成する人数や、学年を構成する人数が少ないという特性から、一人一人の児童の実態をきめ細かに把握することが可能です。また、個々の興味・関心に即して個性を引き出すことや、学習内容の習得状況に応じて個に応じた指導をすることに適した教育環境にあります。それは、複式学級における間接指導において、「自ら学び自ら考える自己学習の時間」が設定されていることから分かります。

このような小規模校の特性を生かし、児童の主体的な学びが展開されれば、自分の意思で学習している喜びを味わい、成就感や充実感を実感しながら学び方を身に付けることが可能です。また、そのことが確かな学力の習得や学びの継続、発展につながります。

つまり、小規模校は、児童に学習の必要感と目的意識を明確にとらえさせ、主体的な学びへの転換を図る学習指導に適していると言えるのです。



小規模校における主体的な学びとは、このような小規模校の特性を生かし、児童が自己の知的好奇心や興味・関心を大切に、学習に対する明確な目的意識をもって新しい知識や技能を獲得することです。また、少人数という課題を克服し、自己の考えを友達の考えと積極的にかかわらせることによって、新しい発想を生み出して自己を高め、それまでの自己の学びを進んで他に発信していくことです。

具体的には、こんな児童を目指します

これまでの学び方を目的に応じて活用、修正し
進んで学級・学校外に学びを広げようとしている

多様な考えに進んでかかわり、他者とともに
新しい発想を生み出そうとしている

明確な目的意識をもち、学習のゴール像を
見通しながら課題解決に自主的に取り組んでいる



主体的に学ぶ力を身に付けさせるためには、児童自身が自分で学習を進めているのだという意識をもたせる

自己決定の場

を指導に取り入れることが大切です。



自己決定は、どのように行わせればいいのですか？

「自己決定」とは、自分以外の誰かにやらされて学習を進めるのではなく、自分の意思で学習していると感じるために、自分で意思決定をすることです。

ここでは、自己決定する場面を特に、目的を明確にする場面、学び方に対する交流を図る場面、学び方を評価し新たな目的をもつ場面で行っていきます。

これらの三つの自己決定場面に、「個の学習活動」と「集団の学習活動」を効果的に取り入れ、課題に対する自己の目的を明確にし、その目的に向けて自己の学びを修正していく意識を高めることをとおして、主体的な学びを育成します。

ここでいう目的とは、教科の目標やそこから明らかになる課題と自分とをかわらせ、これから学習することが自分の生活で具体的にどのように役立ちそうか、あるいは、これまでの学びをどう修正すれば自己をより高められるかを方向付けることです。



自己決定の場の位置付けとねらい

自己決定場面

この場面では、「個の学習活動」を取り入れます。児童が問題と出会ったときに、何を知りたいと思うかは個々の児童によってとらえ方が違います。そこで、知りたいことと自己との関連付けを図らせ、その学習が自分にとってどんな意味があるのか理解させながら児童個々の目的を明確にさせることをねらいとします。



自己決定場面

この場面では、「集団の学習活動」を取り入れます。自己と他者の考えを相互に交流させる中で、共通していることや相違していることなどに気付かせ、その気付きを児童の学びに生かしながら学びを修正することをねらいとします。

自己決定場面

この場面では、「個の学習活動」を取り入れます。ここでは、学び直しを図るために、これまでの学び方を振り返らせ、振り返らせた学びを活用して新たな課題に取り組もうとする目的をもたせることをねらいとします。

【自己決定の場の設定】

導 入	自己決定場面 → 個の学習活動 ～ 目的を明確にする場～ (自己の目的を設定する)
展 開	自己決定場面 → 集団の学習活動 ～ 学びに対する相互交流の場～ (自己の学びを修正する)
終 末	自己決定場面 → 個の学習活動 ～ 学び直しを図り新たな目的をもつ場～ (自己をより高めるために学び方を振り返る) (新たな課題に取り組もうとする目的をもつ)

自己決定場面で行う学習活動の内容と留意事項

学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動に、自己決定場面を位置付ける場合には、以下に示したようなことに留意しながら行うようにします。

	活動の形態	自己決定に関する学習活動の内容と留意点	自己決定の設定場面
自己決定	個の学習活動 目的を明確にする場面	<p>問題場面で知りたいと思ったことが、自分の中でどんな意味があるのか考える</p> <p>学年の目標を明確にしなが、共通で考える全体の課題と個の目的の結び付けを十分図る</p> <p>他の児童の目的を多面的に受容し合わせ、自分の学びに生かすことができるように支援する</p>	指導過程 導入 展開 終末
自己決定	集団の学習活動 学び方に対する相互交流の場面	<p>自分と友達の考えや学びの接点を明確にする</p> <p>課題解決に対する見方や考え方を広くとらえさせるようにする</p> <p>多様な考えを基に相互交流することによって啓発されるものの見方や考え方を、広げたり、深めたりする視点を与える</p>	
自己決定	個の学習活動 学び直しを図り新たな目的をもつ場面	<p>自分の学び方を振り返り、学び直しをする振り返った学び方を活用して新たな目的をもつ</p> <p>学び直した後も、相手意識をもち続け、他学年や他校の児童に発信し続けることをとおして、学びを広げたり、自分をより高めたりできるように支援する</p>	

学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動には、どんなことがありますか？

小規模校で行われる学習活動は、少人数で構成され、固定化した人間関係の中で繰り返されるため、学級での学習活動だけでは、多様な考えに触れ、主体的に検討し合ったり、児童相互の学び合いによって考えを練り上げたりする学習活動を十分行なうことは難しい状況にあります。

そこで、学級や学校の枠をはずした集団での学びの場を意図的に設定し、多くの考えに触れる機会を与えることによって、ものの見方・考え方を深めたり、広げたりすることが大変重要になります。

また、自己決定の場を、学級における学習活動の中に位置付けるだけでは、主体的に学ぶ力を十分に育成できるとは言えません。

そこで、学級や学年を基盤にしながらも、学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動の中に自己定の場を位置付けることが大変重要になります。



学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動の種類

合同学習

合同学習とは、一つの学校で三学年以上(単式の学級では、二学級以上)の児童生徒で学習集団を編成する学習方法です。日常的な授業の一環として行うことが可能です。

集合学習

集合学習とは、近隣の二校以上の同学級の児童生徒、または各学校の全校児童生徒を一カ所に集めて、各学校の協力によって学習指導を行う学習方法です。実施するには、地理的な問題や経済的な問題があり、継続に当たっては難しい面もありますが、学習のねらいを達成させるために大切にしたい指導方法です。

交流学習

交流学習とは、学校規模や生活環境の異なる学校(小規模校と大規模校、国際姉妹校、山の学校と海の学校)どうしが、姉妹的な関係を結び、それぞれの学校独自では体験できない学習や、生活をさせる教育方法のことです。交流学習をとおして、最終的には、お互いが相手の立場を思いやれるように、「豊かな人間形成のできる場」としてとらえていくことが大切です。

(ここで説明した用語については、全国へき地教育研究連盟が発行している「21世紀を拓く教育シリーズ 効率的な学習指導と学校・学級経営」に基づいて説明しています。)

なお、補充資料の中では、合同学習と集合学習について紹介しています。

学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランって何ですか？

学びの場を学級、学校外へと広げた学習活動モデルプランとは、単元の指導構想の中に、学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動を位置付けて、その学習活動の流れや配慮事項を明示した指導のモデルとなるプランのことです。

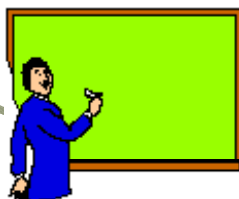
このプランの作成は、以下のような手順で行います。

複式指導を加味した教科等の特性を整理します。

学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動プランの洗い出しをします。

学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動に自己決定場面を位置付けた場合の学習の流れとその配慮事項を検討します。

学びの場を学級、学校外へと広げた学習活動モデルプランを作成します。



この研究では、合同学習と集合学習を組み入れたモデルプランを作成しています。

学びの場を学級・学校外へと広げた四つの学習活動プラン

パターン 1

適している教科	音楽、図工、体育、家庭		
活動の流れ	学級	学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動 (合同学習・集合学習)	学級
より多くの集団の中で他者の考えに共感させ、他者の考えのよさに気付かせながら多人数による活動の楽しさを味わわせたり、学習内容を深めさせたりすることができます。			

パターン 2

適している教科	特別活動、道徳		
活動の流れ	学びの場を学級・学校外へと広げた 学習活動(合同学習・集合学習)	学級	学びの場を学級・学校外へと広げた 学習活動(合同学習・集合学習)
行事等の指導で生じる少人数による弊害を解消できます。活動の計画や目標を児童に共通理解させ、多人数の中で目的を達成させるよさを味わわせることができます。			

パターン 3

適している教科	生活、社会、総合的な学習		
活動の流れ	学年	学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動 (合同学習・集合学習)	学年
各学校での弾力的な指導が可能なことから、扱う教材や目標などを協働で開発し、作業的、体験的な学習をとおして、学び方や調べ方を身に付けさせることができます。学びを広げた学習活動では、異学年同士でも、段階を踏みながら一つの目標に向かわせることができます。			

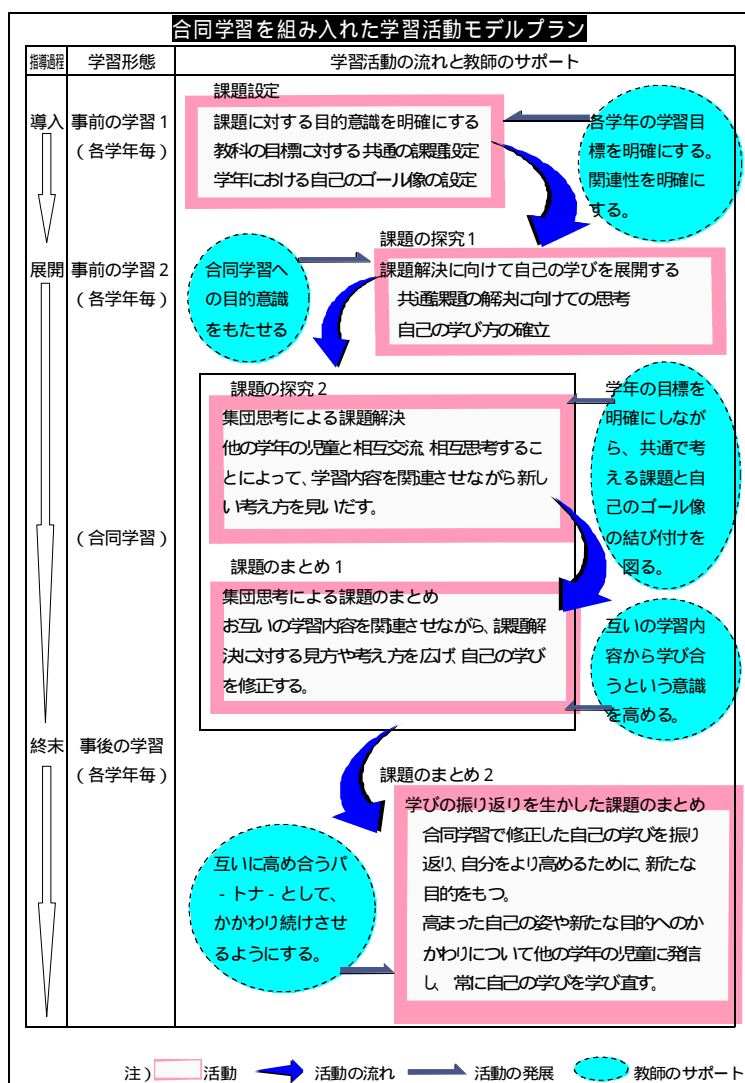
パターン 4

適している教科	国語、算数、理科		
活動の流れ	学年	学びの場を学校外へと広げた学習活動 (集合学習)	学年
学校外へ学びを広げると、同じ学年の学習集団を構成することができるという長所を生かした、単学年の学習活動を取り入れることができます。学びを広げた学習活動では、学年単位で新しい発想を生み出したり、学びを深めたりする学び合いを工夫・改善することができます。			

学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプランを活用した授業の進め方

1 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプラン1の実践紹介

合同学習を組み入れた学習活動モデルプラン



指導上の配慮事項

合同学習は、異学年の学習集団で構成されることから、同学年の学習集団以上に個性や能力に差が生じてきます。そこで、異学年集団としての長所を指導に十分生かすようにすることが必要となります。

下の学年には、上の学年の考えや技術に学ぶという意識をもたせながら、教科の学習内容の系統性に気付かせることが大切です。そして、上の学年には、下の学年を補助することをとおして、意欲を高めながら学習内容を補充、発展させることが大切です。

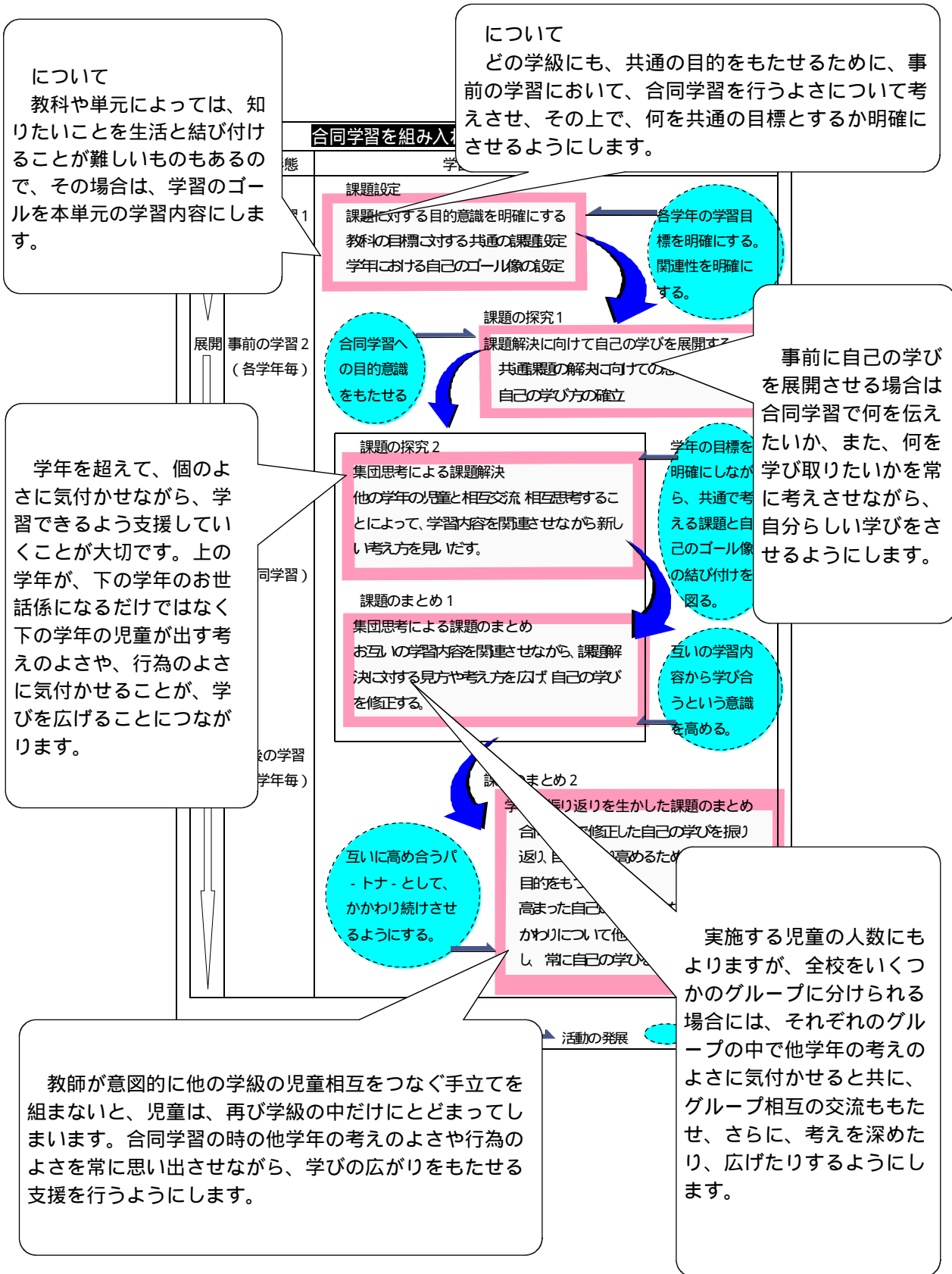
特に最高学年である6年生の指導に当たっては、補助的な立場にだけおくことのないよう配慮するとともに、中学校の学習内容との系統性を考慮しながら指導することも必要です。また、1年生の指導に当たっては、補助される立場にだけおくことと主体的に学ぶ力の育成を妨げることが考えられるので、指導には十分配慮が必要です。

なお、合同学習を行うに当たっては、学級間の連携も重要になります。配慮事項を以下に示します。

学級間連携上の配慮事項

合同学習を計画的に行うためには、学習環境を整備することが大切です。学年間で学習内容に関連性があり、合同学習を組み入れたことによって効果の上がる学習内容を洗い出し、整備することが必要です。また、その活動内容を年間指導計画に位置付けることによって、長期的、計画的に指導するようにします。さらに、教師の専門性を生かし、指導体制を整備することも大切です。

合同学習を組み入れた学習活動モデルプランを活用する場合の配慮事項



ねらいの設定

合同学習を行う場合は、まず、ねらいを明確にすることが大切です。その場合、学級や学校の児童の実態に応じて設定しますが、同一校内で行うことから、隣接する学年のねらい相互の関連性を考え合わせることも重要になります。

この研究で行った授業実践の対象児童は、1年生5名と2年生1名の複式学級、3年生4名と4年生4名の複式学級、5年生3名と6年生4名の複式学級です。これまでに、全校として合同で学習に取り組んでいることは、体育の授業の中の週1時間、その他に音読朝会を週1回、朝読書を週1回行っています。体育は、学級の単位では十分にゲームの楽しさを味わわせにくいボール運動や鬼遊びを中心に行っています。また、主体的に学ぶ力に関する児童の実態を、担任教師から事前調査した結果、「一つの意見が出ると、それで満足してしまい、もっとよい考えはないか、他にも方法はないかなどと考えようとする意欲に欠ける。」「個人差が大きく、学級としてなかなか主体性が育たない。」「間違えていた場合、なぜ違っていたのか、もう一度自分でよく考えてみようという意欲に欠ける。」「意欲のある児童でも、学習の進め方や方法がまだ十分身に付いていない。」ことが挙げられました。

そこで、合同学習のねらいを【表1】に示した三点に設定しました。そして、これらのねらいを、どの教科で、どの時期に実現させるか検討しました。

検討の結果、このねらいを、図画工作科で具体化することにしました。

【表1】合同学習のねらい

A	学習の目的を明確にし、その目的に向かって助け合い、補い合って自主的に学習に取り組む
B	多様な考えに進んでかかわり、自分や友達の考えのよさを見つける
C	自己をより高めるために、かかわった考えを生かして、自分の学びを修正したり、新たな目的をもったりする



全体計画の作成

合同学習のねらいとして設定したABC三つのねらいを、教科で達成させるために、各教科毎の指導構想を立てます。そして、それぞれの学年がどの時期にどの領域や単元で協働で学習を進めればよいかを明確にすることで、年間の見通しをもって指導できるようにします。これは、合同学習を図画工作科で実施する場合の全体計画を作成する手順を表したものです。(完成した全体計画は、40、41ページ【資料3】に載せてあります)

図画工作科全体計画の作成手順

学年別の題材の検討

特に、地域素材を活用できる場合は、分野や主題を考慮して題材を検討するようにします。また、児童の興味・関心に合わせて、材料や表現方法を選択できる内容設定にしておきます。

配当時間の検討

児童の実態や興味・関心に合わせて、選択できる時間も考慮します。

主題の設定

材料や場所の活用、想の拡充、行為の展開、鑑賞を明示します。

分野の設定

絵、つくる、造形遊び、立体のどの分野なのか明示します。

【合同学習】

回数、内容、学年、実施時期等を検討して指導計画に位置付けます。

図画工作科全体計画

A年度(教科書:上)

月	第1・2学年 (全68時間)				第3・4学年		第5・6学年
	題材名	時間	分野	主題	題材名	題材名	
4月	1 みつけたよ	2			1 ためしな	1 自信をもって	
月	2 すきなものなあに	2	絵	想の拡充	2 きせつの中で	5 こんなとき感	
一	3 みんななかよし				4 グルグルかくかく		
一	くるくろチョコキン	4	つくる	想の拡充	6 風パワーぜんかい	略	
学	かさねてチョコキン	4	つくる	想の拡充	ウインドガー	略	
期	おってチョコキン	4	つくる	想の拡充	スルスルスットン		
一	6月 合同学習題材(例)「ねんどくっつけ」		立体	行為の展開 (全4時間)			
	【1・2年】				【3・4年】	【5・6年】	
	7 ねんどでたしざん				5 くっつけく	9 曲げ	
7月	4 できたできた						
	すきなばしよで	4	造形遊び	材料や場所の			
月	いろいろなかみで	4	絵	材料や場所の			

【合同学習1】

1学期は、粘土を素材として、各学年4時間の立体分野の時間を設定しました。

略

年間指導計画の作成

全体計画の作成後、合同学習を取り上げた年間指導計画を作成し、各学年のねらいをどのようにかわらせて指導すればよいかを明確にします。これは、図画工作科における合同学習の年間指導計画です。
(完成した年間指導計画は、42、43頁【資料4】に載せてあります)

図画工作科年間指導計画作成の手順

8頁に示した合同学習のABC三つのねらいを、各学年毎に重点化します。

図画工作科における合同学習のねらいを児童の姿に具体化します。

合同学習の題材を決定し、各学年の目標や学習内容を明確にします。

全校で行う場合の合同学習の共通目標を設定します。

合同で学習しながら、補充的、発展的な指導を行うための、学年間の関連内容を明確にします。

図画工作科合同学習年間指導計画

A年度

1・2年	ねらいB	3・4年	ねらいBC	略	5・6年	略
・材料や道具、作品の違いに関心を持ち、他の学年の人の行為から多様な表現方法があることに気づき、自分の表現に生かす。		・材料や道具、作品の違い(よさ)に人の発想や行為のよさを見つけ、自		略	・多様な視点から材料、よさを進んで見つけ	

月	題材名 共通目標	1・2学年		学年間の関連 及び発展性	3・4学年		5・6学年	
		学習目標	学習内容		学習目標	学習目標		
6月	【題材名】 ねんどくっつけ 【共通目標】 粘土の特性を生かし、 友達の表現方法を自分に取り入れ	粘土に親しみ、粘土の感触を自分の手になじませるようになる。 粘土の形をつくり、積	粘土が思いにあった形になるように工夫しながら、特性を十分味わうこと。 いろいろな形の組みあ	思いのままに、貼ったり囲んだりする。 活動場所の広さや形状などを生かしながら、貼ったり囲んだりする。 自分の思いの	粘土を付け足しながらできる空間の変化を楽しもうとするようにする。 粘土の特性を生かしな	粘土を加工していく操作から、思いついた形を作品にするようにする。 粘土の板づくりや、ど	略	略



学習活動モデルプランの具体化

どの領域や単元で授業するかを決めたら、合同学習を組み入れた学習活動モデルプランを基にして具体プランを作成します。これは、全体計画の6月教材として設定した「怪獣がやってきた」の学習活動具体プランです。






図画工作科学学習活動具体プラン

【題材名】 「かいじゅうがやってきた」		【分野】 造形遊び	【学習主題】 材料や場の活用	【指導時数】 全6時間	
指導過程	学習形態 時間	学習活動の流れ			
単元 導 入	事前学習 (2時間) 学級毎	1・2年	3・4年	5・6年	
		課題の設定 1 題材のストーリーを知る ・活動の方向性を見い出す 課題の追究1 2 新聞紙のもつ特徴に気付くために、新聞紙を使って思いついた方法を自在に試してみる。 ・丸める ・つなげる ・囲む	課題の設定 1 題材のストーリーを知る ・活動の方向性を見い出す 課題の追究1 2 中に入ることができそうな身近な場所を見つける。 3 場所から感じたことを膨らませ新聞紙で囲ってみる。 ・空間を囲む	課題の設定 1 題材のストーリーを知る ・活動の方向性を見い出す 課題の追究1 2 新聞紙のもつ特色を生かして、場所の雰囲気を変化させる面白さを楽しむ。 ・空間を囲む ・光を当てる ・風を通す	自己決定に関する配慮事項 その他の配慮事項 各学年の学習目標を明確にする。 異学年による学習集団をつなげることを考慮し、個性や能力をより一層重視する。 合同学習への学習意欲を高めるための学習意欲を高めるようにする。
		課題の追究2 1 縦割りグループ毎に、話のストーリーからつくりたいものを発想し、テーマを決める。 2 新聞紙のもつ特徴を生かし、テーマに合ったものをつくって遊ぶ。 ・テーマに必要なものづくり	課題の追究2 2 活動場所の広さや形状などを生かし、テーマに合ったものをつくって遊ぶ。 ・テーマに必要な土台づくり	課題の追究2 2 場所の特徴に加えて、光や風などの自然も利用して、テーマに合ったものをつくって遊ぶ。 ・テーマに必要な土台づくりと、光や風を生かす工夫	共通で考える課題と、自己結び付けを図る。 下学年には、上学年の考えや技術という意識をもたせながら、様々な表現があることを付け加える。上学年には、下学年を補助するだけでなく、多様な視点から見付けられるようにする。 自分の学びを振り返り、新たな目標を設定できるようにする。
課題のまとめ1 3 同じグループの友達の行為のよさを見付け、自分の表現に生かしながら、工夫してつくり足したり、つくり直したりする。	課題のまとめ1 4 つくったもので遊んだり、他のグループと交流したりして作品のよさを味わう。	課題のまとめ1 4 つくったもので遊んだり、他のグループと交流したりして作品のよさを味わう。			
展 開	合同学習 (2時間) 全学年	課題のまとめ2 1 合同学習で身に付けた表現方法を生かして、学級で新しい造形遊びに挑戦する。 ・ほかのグループの方法で囲ったり、飾ったりしてみる。 ・新聞紙でできそうな遊びを、新たに考える。 ・学級の友達の発想や行為のよさを見付ける。	課題のまとめ2 1 合同学習で身に付けた表現方法を生かして、学級で新しい造形遊びに挑戦する。 ・ほかのグループの方法で囲ったり、飾ったりしてみる。 ・新聞紙でできそうな遊びを新たに考える。 ・学級の友達の発想や行為のよさを見付ける。	課題のまとめ2 1 合同学習で身に付けた表現方法を生かして、学級で新しい造形遊びに挑戦する。 ・ほかのグループの方法で囲ったり、飾ったりしてみる。 ・新聞紙でできそうな遊びを新たに考える。 ・学級の友達の発想や行為のよさを見付ける。	他の学年との相互交流において気付いたり身に付けたりした材料、道具、作品、発想や行為のよさを、自分の表現方法に生かすために新たな課題にチャレンジさせる。 自己の高まりを自覚できる場を設定する。
		事後学習 (2時間) 学級毎	事後学習 (2時間) 学級毎	事後学習 (2時間) 学級毎	
終 末					

指導案の作成

一単位時間の指導計画には、自己決定場面と決定する内容やその配慮事項を明記します。
12、13、14頁に、第1・2学年の指導案を紹介します。

第1・2学年図工科学習指導案

主題分野	材料や場の工夫 造形遊び	材料・用具
題材名	 「かいじゅうがやってきた」 (全6時間)	新聞紙 ・セロハンテープ ・ホチキス ・はさみ ・ひも
学習目標	新聞紙の特徴から、自分の表現方法で遊ぶものをつくる楽しさを味わう。 新聞紙を丸めたり、つなげたり、囲ったりしてつくるものの形や使い方を試す。 つくったもので遊ぶ楽しさを味わう。	
【第1・2時】学級ごとの事前学習		
過程	展開の概要と予想される児童の反応()	自己決定と指導上の留意点及び評価
意欲付け	<p>1 題材のストーリーを知る</p> <p>「この町に怪獣がやってきた。でも、この怪獣は、実は新聞紙に弱い。自分たちを守る新聞をつくらう！」</p> <p> 新聞で、ぶきをつくらう。 新聞の服を着たらいいかな。 どこかを囲ってみようよ。</p>	<p>【自己決定1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストーリーを知り、どんなものをつくりたいか、また、どんな力を身に付けたいかという目的を明確にする。 <p>【学習プリントに記述】</p> <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年の目標をもたせるとともに、合同学習で協同して作り出すことへの意欲をもたせるようにする。 ・新聞紙と親しむ活動を十分行うことをとおして、新聞紙の特徴に気付かせるようにする。
発想構想	<p>2 新聞紙の特徴を感じ取る 新聞を使ってどんなことができるか試してみる</p> <p> セロハンテープでつないでみたら大きくて丈夫になったみたい。 丸めたらかたくなったね。 やぶいたらひらひらするよ。</p>	<p>【評価】</p> <p>構：テーマからイメージを膨らませて、丸めたりつなげたり囲ったりするなどして、表し方を考える。</p> <p>【活動 つぶやき】</p>
創造技能	<p>3 新聞紙の特徴から、思いついたものをつくる 「新聞」に生かせそうなものをつくる</p> <p> つないでかべにしよう。 丸めてぼうえんきょうをつくらう。 入り口は、やぶいてつくるよ。 つつでけんをつくるね。</p>	<p>【自己決定2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や友達の作品、行為の中から、目的に対する見方や考え方を広げる。 <p>【学習プリントに記述】</p> <p>【評価】</p> <p>表：新聞紙の特徴を生かして、テーマに合うものを、思いのままにつくっている。</p> <p>【活動、つぶやき】</p>
鑑賞	<p>4 つくったもののよさやおもしろさを感じ取る 丸めたり、つなげたり、囲ったりしたものを、見合い、丸め方やつなげ方、囲み方のおもしろさなどを楽しむ</p> <p> 紙っていろいろ変化しておもしろいね くんのつなげかた丈夫になるね。</p>	<p>【自己決定3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の学びを振り返り、新たな目的をもつ。 <p>【学習プリントに記述】</p> <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な表現方法があることに気付かせるようにする。

【第3・4時】全校による合同学習

過程	展開の概要と予想される児童の反応()	自己決定と指導上の留意点及び評価
意欲 付け	<p>1 活動の方向性を決める</p> <p>グループ毎に、テーマを決めて、怪獣から自分たちを守る「新聞」をつくろう!</p> <p>自分たちを守る建物をつくろうよ。 新聞で戦えるものをつくろう。 怪獣と戦うロボットはどうだろう。 ドーム型にして、中は天国みたいにしたいんじゃない。</p>	<p>【自己決定1】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分のめあてが達成するように、今日工夫することを具体化させる。【図工宝箱カードに記入】 <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分のやりたいことと友達のやりたいことをどう合わせていくか考えさせるようにし、協力してつくることに意識を向けさせるようにする。 自分らしさを実感させるため、友達や教師の共感的な言葉がけを工夫する。 各学年のねらいを明確にし、個別に支援していくようにする。 活動の途中であっても、友達の行為や作品のよさに気付いたときは、自分の活動に取り入れると共に、自分らしくアレンジするよう支援する。
発想 構想	<p>2 テーマにそって、およその計画を立てるグループとして造形遊びをするために、場所や大きさ、分担などおよその計画を立てる</p> <p>どこに基地をつくろうか。 建物の中には何があったらいいかな。 仕事を分担しようよ。 みんなの考えたものを合わせたらいいじゃない。</p>	
創造 的な 技能	<p>3 自分のアイデアを生かして協力してつくって遊ぶ 事前学習で感じ取った新聞紙の特徴と、自分のアイデアを生かしてつくりたいものをつくる</p> <p>新聞で囲むときは、ひもも使うといいよ 丈夫に囲むために、新聞をたくさん使う。 ぼくは、新聞をたくさん丸めるから、いろいろなところに使っていいよ。 私のつくった筒と ちゃんのつくったものを合わせたらどうなるかな。</p>	<p>【自己決定2】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分や友達の作品、行為の中から、目的に対する見方や考え方を広げる。【図工宝箱カードに記入】 <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> つくることだけに没頭している子には、遊びながらさらにアイデアを膨らませながらつくるよう声がけをする。
鑑賞	<p>4 つくったもののよさやおもしろさを感じ取る 自分や他のグループでつくったもので遊び、よさやおもしろさを伝える</p> <p>グループは、光がたくさん当たって明るくてきているね。 ここはだれがつくったの。かっこいいね。 見て。ぼくが自分で気に入ってるのはここだよ。丸めるの大変だったけど、がんばったよ。</p>	<p>【自己決定3】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の学びを振り返り、新たな目的をもつ。【図工宝箱カードに記入】 <p>評価</p> <p>鑑：【活動、つぶやき、カード】</p> <p>低 いろいろな表し方の違いに気付き、自分らしさを感じる。</p> <p>中 いろいろな表し方や材料の組み合わせによる感じ方の違いに気付く。</p> <p>高 作品の意図を想像したり、他の作品と見比べたりしながら見ようとしている。</p>

【第5・6時】 学級ごとの事後学習

過程	展開の概要と予想される児童の反応()	自己決定と指導上の留意点及び評価
<p>意欲 付け</p>	<p>1 本時の学習内容を知る</p> <p>ぼく(たち)・私(たち)の新聞紙あそびをしようかいしよう。</p> <p>感じ取った新聞紙の特徴から、他にどんな新聞遊びができそうか考える</p> <p>お化け屋敷をつくりたいなあ。 いろんなところを囲ってみたいなあ。 どんどん敷いて広くしたいなあ。 新聞の山に埋もれたいなあ。</p>	<p>【自己決定1】</p> <p>自分のめあてを達成するために、本時に自分が工夫することを具体化させる。 【図工宝箱カードに記述】</p> <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分なりの方法を使ったり、新たな方法を試したりできるように、選択幅を拡大する。(材料、活動場所) 合同学習で新しく学んだ表現方法を試すよう声かけをする。 自分らしさを実感させるために、友達や教師の共感的な言葉がけを工夫する。
<p>発想 構想</p>	<p>2 新聞紙の特徴から発想を広げる 合同学習での友達や他のグループの作品や行為から学んだ新しい表現方法の中から、自分のつくりたいものに生かす方法を選んで考える</p> <p>細く切って入り口をひらひらさせよう。 遊具を新聞で囲ったら、秘密の部屋がきそうだね。 ガムテープでつないで、丈夫にしよう。 ちぎった新聞紙を段ボールに入れよう。</p>	<p>【評価】</p> <p>構：新しい表現方法を生かして、つくりたいものを考えている。 【活動、つぶやき】</p>
<p>創造 的な 技能</p>	<p>3 新しい表現方法を取り入れて、思いついたものをつくる 合同学習で友達や他のグループの作品や行為から新しく知った表現方法を活用して、新たな遊びを考えてつくる</p> <p>火の玉は、かたく丸めたり柔らかく丸めたりしよう。 囲ったところにあなを開けると光が入って明るくなるね。 どんどん敷いて広くしよう。友達全員入れるかなあ。</p>	<p>【自己決定2】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分や友達の作品や行為の中から、目的に対する見方や考え方を広げる。 【図工宝箱カードに記述】 <p>【評価】</p> <p>表：多様な表現方法をつかって、思いついたものをつくっている。 【活動、つぶやき】</p>
<p>鑑賞</p>	<p>4 つくったもののよさやおもしろさを感じ取る 学級の友達の作品や行為のよさを感じ取ったり、自分で工夫したことを、他の学年の友達に伝えたりする</p> <p>年生の くんのアイデアでやったら、おもしろいものができたよ。教えたいなあ。</p>	<p>【自己決定3】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の学びを振り返り、新たな目的をもったり、それを他に発信しようとする。 【図工宝箱カードに記述】 <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分らしさを認識させるようにする。

図工宝箱カード



題材名を記入します。

年 _____

こんなことがんばるよ！



単元を通しての目的を明確にさせます。
(例) ・アイデアをたくさん出す。
・友達のよいところをたくさん見つける。
・みんなで楽しんでつくる。

月 日

今日のめあて

自己決定1
「こんなことがんばるよ」
で決めた自分のがんばることを達成させるために今日することを具体的にさせます。

やったこと

自己決定3(1)
活動を振り返るために、自分がやったことを明確にさせます。

今日のGOOD!

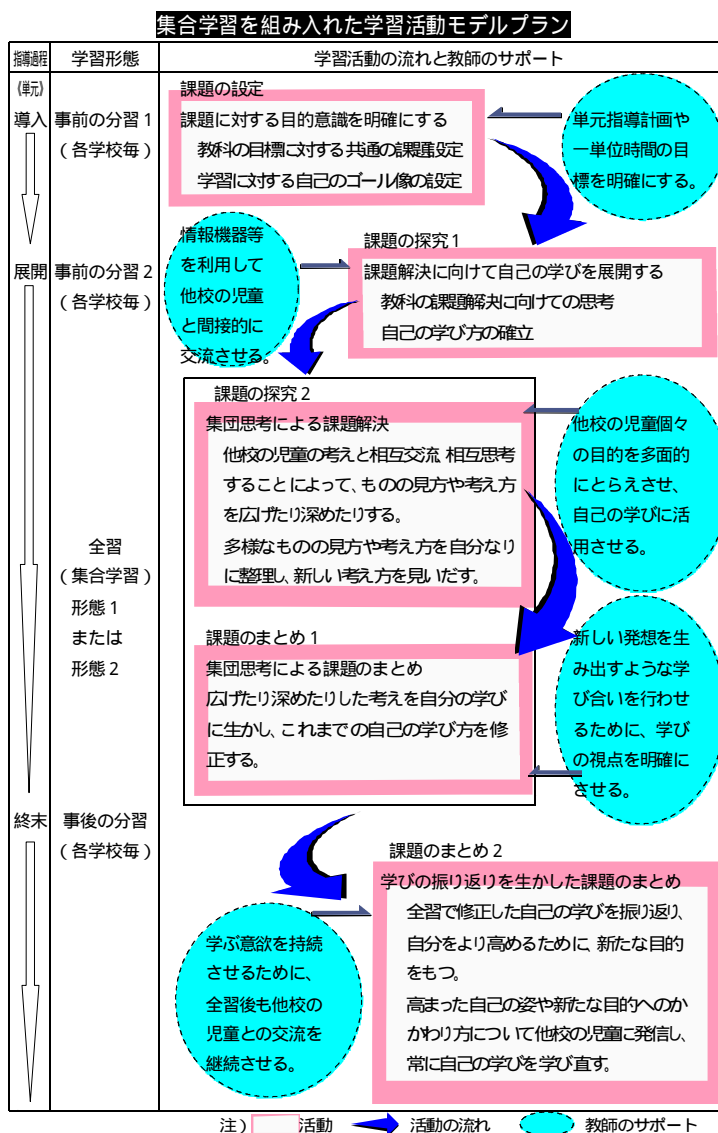
自己決定2
鑑賞の時に、自分や友達の作品や行為のよさを見つけさせます。

お知らせします!

自己決定3(2)
自分の目当ての振り返りや、次時につながる新たな目的の設定、自分の作品や行為のアピールをさせます。

2 学びの場を学級・学校外へと広げた学習活動モデルプラン2の実践紹介

集合学習を組み入れた学習活動モデルプラン



指導上の配慮事項

単元の指導計画や一単位時間の目標を明確にすることが、共に学ぶ学習活動を組み入れる上で大変重要になります。

さらに、児童にとって集合して行う学習(全習)のみが多様な考えに触れ合える機会ととらえるのではなく、各学校における学習活動(分習)においても、Webページやeメールなど情報手段を使用して、間接的に交流できるようにしたり、事前の分習や事後の分習全てにおいて共に学ぶ意識を高めさせたりすることが大切になります。

全習である集合学習を、複数回実施できる場合には、ねらいを明確にして、どの段階に、どんな活動を行わせるか考えた上で、モデルプランにプラスして全習を組み入れるよう配慮します。

集合学習は、多人数による学び合いの回数を重ね経験を積み重ねる毎に、主体的に学ぶ力の育成に効果を来すものという考えに立ち、年間指導計画を工夫・改善することを大切にします。

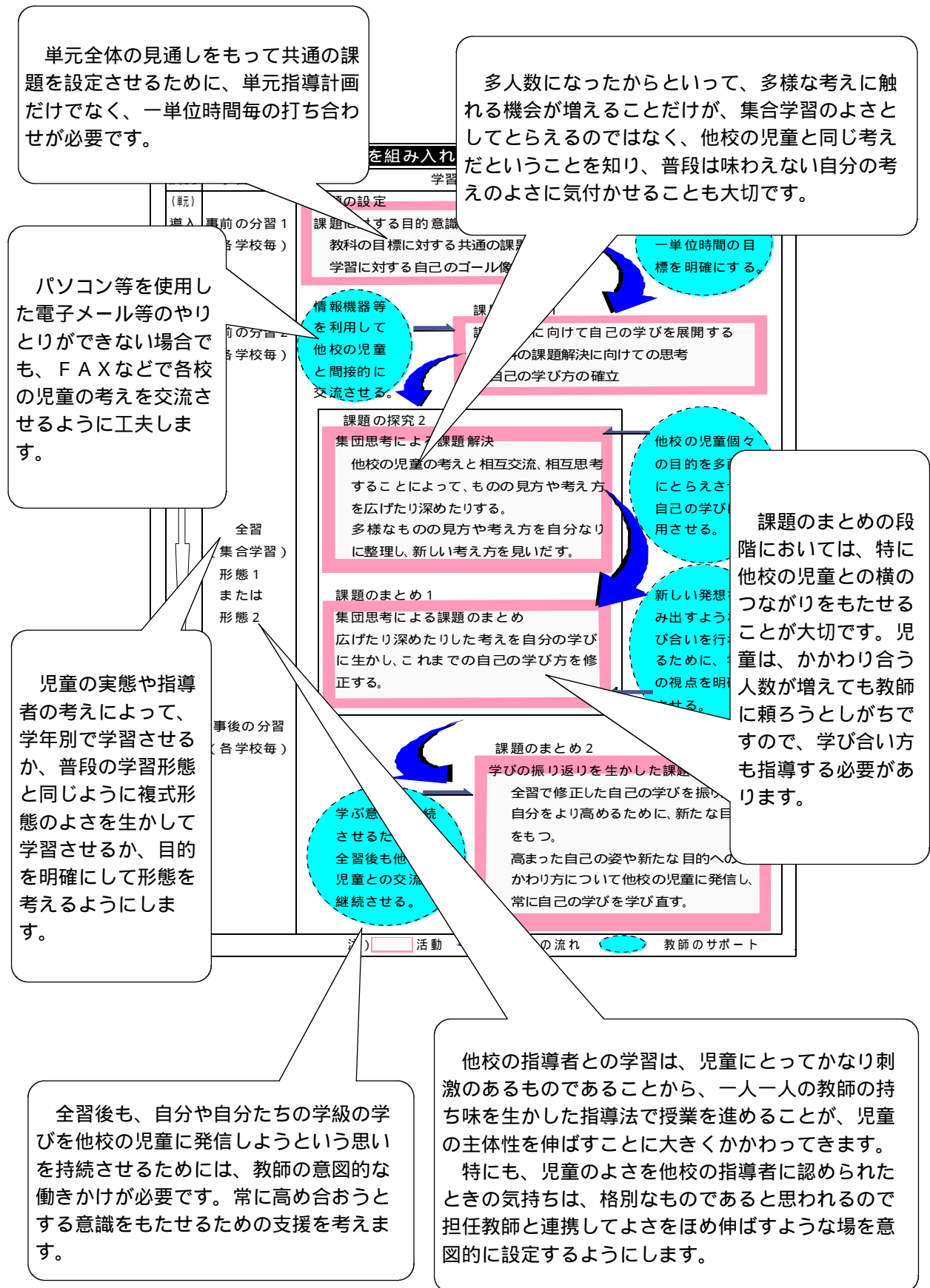
なお、集合学習を行うに当たっては、学校間の連携も重要になります。配慮事項は以下に示します。

学校間連携上の配慮事項

集合学習を行う上では、学校が離れていることから、指導者同士が共通理解するまでに時間がかかることや指導分担が難しいこと、打ち合わせの時間や日程の取り方が難しいという問題があります。

また、学習環境が異なることから、カリキュラムを編成することの難しさや事前・事後の学習に統一性をもたせることが難しいという問題があります。これらの問題点を解決するための一つの方法としては、学校間のネットワークづくりが考えられます。育てたい児童像を共有し、学校間の教師指導体制を整えたり、学習過程を共有したりして、主体的に学ぶ児童を協働で育成するという意識を高めることが大切です。

集合学習を組み入れた学習活動モデルプランを活用する場合の配慮事項



ねらいの設定

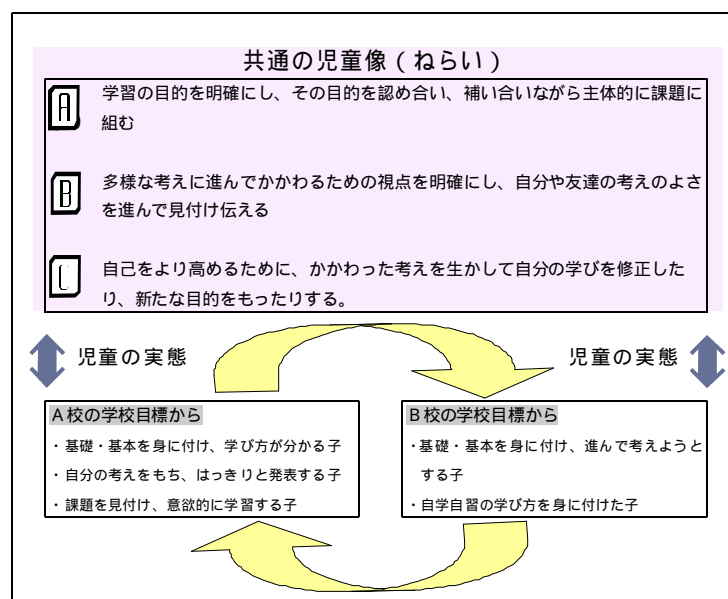
集合学習を実際に行う場合は、まず、ねらいを明確にすることが大切です。その場合、各学校の児童の実態に応じて設定しますが、共通して培いたい力を明確にして協働でねらいを達成させることが大切です。

この研究で行った授業実践例の対象児童は、B校の5年生3名、6年生4名(複式学級)と、A校の5年生3名、6年生4名(複式学級)の計14名です。これまでに集合学習を行って来てはいませんが、平成11年度から年1回、交流会を行っています。活動の内容は、縦割りのグループによる野外炊飯と、レクリエーションです。事前や事後の活動も含め、子ども達が交流できる場を多く設定した実践を積み重ねてきています。

主体的に学ぶ力に関する児童の実態は、担任教師から事前調査した結果、合同学習と同様「一つの意見がでると、それで満足してしまい、もっとよい考えはないか、他にも方法はないかなどと考えようとする意欲に欠ける。」「個人差が大きく、学級としてなかなか主体性が育たない。」「間違えていた場合、なぜ間違えていたのか、もう一度自分でよく考えてみようという意欲に欠ける。」「意欲のある児童でも、学習の進め方や方法がまだ十分身に付いていない。」ことが挙げられました。

これらの児童の実態と各校の学校目標を考え合わせ、集合学習のねらいを以下に示した三点に設定しました。そして、このねらいを、どの教科で、どの時期に実現させるか検討しました。

検討した結果、このねらいは、算数科で具体化することにしました。



年間指導計画の作成

集合学習のねらいとして設定したABC三つのねらいを、教科で達成させるために、各教科毎の指導構想を立てます。そして、それぞれの学年がどの時期にどの領域や単元で他校と協働で学習を進めればよいかを明確にすることで、年間の見通しをもって指導できるようにします。これは、算数科第5・6学年用に作成した集合学習を組み入れた年間指導計画です。

算数科第5・6学年 集合学習を組み入れた年間指導計画 (使用教科書:東京書籍)

学期 時数	月	単元名(単元の時数)		指導類型
		第5学年	第6学年	
1 学期 51 時間	4	1.小数と整数のしくみ (9)	1.倍数と約数 (7) * ブロック遊び	b
		2.小数のかけ算とわり算 (13)	2.かゝ数の計算 (2) 4.平均 (7) * 一筆がき (1)	b d
	5	集合学習単元	3.分数のたし算とひき算 (9)	a
		4.分数のたし算とひき算 (6)		
	6	6.計算のきまり	5.単位量あたりの大きさ	b d
		3.垂直・平行と四角形		
	7	集合学習単元		
2 学期 60 時間	8	集合学習単元		
	9	7.小数のかけ算 (11)	6.分数のかけ算とわり算 (11)	a
		8.小数のわり算 (11) * ブロック遊び (1)	7.分数のかけ算とわり算 (12)	a
	10	5.偶数と奇数 (2)	8.およその面積 (2)	d
		タングラム (1) * どんな計算になるのかな? (1) * 目につけて (1)	* 紙を切って (1)	
	11	単元配列	(5)	指導類型 a - 共通目標設定型(同領域) b - 学年別目標設定型(同領域) c - 共通目標設定型(異領域) d - 学年別目標設定型(異領域)
		学年の単元を配列する場合は、複式指導する学年間の学習内容の関連性を考えて、できるだけ同領域を、また、共通の目標を設定できる単元どうしを合わせるように設定する。	(2)	
(12)				
12	(5)		d	
	(1)	* 順序よく考えて (1) * 物の値段大調査 (2)		
3 学期 39 時間	1	13.百分率とグラフ (12)	12.比例 (10)	d
	2	14.円周と円周率 (13) * ものさしを見つけよう (2) * 給食大調査 (2)	10.体積のはかり方と表し方 (11)	b
		3	* 5年のふくしゅう (4)	

単元指導計画の作成

年間指導計画の作成後、集合学習を組み入れる単元の指導計画を作成し、各学年のねらいをどのようにかわらせて指導すればよいかを明確にします。これは、集合学習を組み入れた算数科の単元指導計画です。

集合学習を組み入れた単元指導計画

第5学年 (6時間)		第5学年 (6時間)		第5学年 (6時間)	
指導類型: (領域:数と計算)		指導類型: (領域:数と計算)		指導類型: (領域:数と計算)	
共通目標 学習内容にかかわって:分数のたし算とひき算の仕方を理解し、その計算ができる。		共通目標 学習内容にかかわって:分数のたし算とひき算の仕方を理解し、その計算ができる。		共通目標 学習内容にかかわって:分数のたし算とひき算の仕方を理解し、その計算ができる。	
学習活動		目標と集合学習のねらいの重点		目標と集合学習のねらいの重点	
・単元全体を見通した学習計画づくりをする。		分数の既習の内容を振り返るとともに、分数の学習に対する課題を明確にする。 A		分数の既習の内容を振り返るとともに、分数の学習に対する課題を明確にする。 A	
・ $\frac{3}{5} + \frac{4}{5}$ の計算のしかたを考える。		同分母の真分数同士の加法計算のしかたを理解し、その計算ができる。 B C		異分母分数の加法計算の考え方を理解する。 B C	
・ $\frac{7}{5}$ のしかたを		集合学習の設定場面 分習:各学校毎の学習 全習:集合学習		分数を分母と分子に分けて、同数を乗除しても、分数の大きさは変化しないことを理解する。 A B	
・ $\frac{1}{2}$ とみた図に色を塗って表したり、数直線を使って大きさの等しい分数をさがす。		集合学習のねらい 三つのねらいのうち 子どものねらいを重点にするか明示します。		通分の関係を理解する。 数の減法のしかたを理解する。 A B C	
・数直線をもとにして分数の大小を比べる		分母が同じ分数の大小比較のしかたを理解する。 A B C		約分の意味と方法を理解する。 A B C	
・自分の課題に立ち返り、学習内容を補充、発展させる。		学習内容の理解を確認する。 A C		3口の計算のしかたを理解する。 A B C	
計算のきまり(3時間)		学習内容の理解を確認する。 A B C		学習内容の理解を確認する。 A B C	
				外的な学習活動をとおして学習内容の理解を深め、興味を広げる。 C	
				学習内容の理解を確認する。 A C	

共通目標
学習内容と学び方の
両面から設定します。

集合学習の設定場面
分習:各学校毎の学習
全習:集合学習

集合学習のねらい
三つのねらいのうち
子どものねらいを重点にするか明示します。



学習活動モデルプランの具体化

どの領域や単元で授業するかを決めたら、集合学習を組み入れた学習活動モデルプランを基にして具体プランを作成します。これは、年間指導計画の5～6月教材として設定した第5学年「分数のたし算とひき算」第6学年「分数のたし算とひき算」の学習活動具体プランです。

算数科の学習活動具体プラン

【単元名】		第5学年「分数のたし算とひき算」		第6学年「分数のたし算とひき算」		【指導時数】	
		(領域)		数と計算		5学年(6時間) 6学年(9時間)	
指導過程	学習形態 時間	学習活動の流れ				自己決定に関する配慮事項 その他の配慮事項	
		第5学年		第6学年			
導入	分習1 各学校毎	課題の設定 1 分数学習の目当てを明確にする		課題の設定 1 分数学習の目当てを明確にする		共通目標を設定するときは、学校相互の情報交換を密にし、児童とともに学ぶ土作りをする。 情報機器等を使って、児童の考えを交流させる。 複式指導のよさを生かし、2個学年ペアで既習事項を想起させることで、混同していた分数の知識を、学年毎に分類整理させる。 他校の児童相互の目当てを多面的にとらえられるようにする。 導入と終末は複式指導のよさを生かして、展開は、学年別指導のよさを生かして展開する。 学年別指導時は、教室をに別にして行う。	
		共通目標：「分数のたし算とひき算」の達人になろう					
		課題の追究1 2 2学年ペアになり、既習の分数学習を想起する		課題の追究1 3 単元の学習計画を立てる			
展	全習1 集合学習	課題の追究2 複式形態 1 お互いの学習に対する目当てを理解し合う		課題の追究2 単式形態 2 異分母分数の加法計算の仕方を考える		学校毎の学習内容を交流し合い、集合学習のときに、何を学び合いたいかが、目的をもたせるようにする。 導入と終末は、共通に指導し、学年間の学習内容に関連性を見いださせる。 学校毎の学習内容を交流し合い、集合学習のときに、何を学び合いたいかが目当てをもたせるようにする。 導入と終末は、共通に指導し、学年間の学習内容に関連性を見いださせる。 他校の児童相互の目当てを多面的にとらえ、学びの高まりを共有し合えるようにする。 導入と終末は複式指導のよさを生かして、展開は、学年別指導のよさを生かして展開する。 学年別指導も、同じ教室で行う。	
		単式形態 2 同分母の真分数同士の加法計算の仕方を考える		単式形態 3 お互いの考えを交流し合い、考えのよさを共有する			
		課題の追究3 1 自分の目当てを明確にする 2 同分母の真分数同士の減法計算の仕方を考える		課題の追究3 1 自分の目当てを明確にする 2 等しい分数の作り方を考える			
開	分習2 各学校毎	3 他校の児童に、自分たちの考えを伝える				全習後も、自分や自分たちの学級の学びの高まりを他校の児童に発信しようという思いをもたせ続けるように、働きかける。 課題のまとめから、児童へ目当てのもたせるときは、これまでの学習の定着状況を自分で振り返らせ、自分に必要な学習が何か自己決定させることによって、目当てを明確にさせたり、広げさせたりする。	
		課題の追究4 1 自分の目当てを明確にする 2 数直線などを使って大きさの等しい分数を探す		課題の追究4 1 自分の目当てを明確にする 2 大きさ比べや通分仕方を知り、減法計算の仕方を考える			
		3 他校の児童に、自分たちの考えを伝える					
終末	全習2 集合学習	課題の追究5 複式形態 1 お互いの学習に対する目的を理解し合う		課題の追究5 単式形態 2 約分の意味と方法を考える		全習後も、自分や自分たちの学級の学びの高まりを他校の児童に発信しようという思いをもたせ続けるように、働きかける。 課題のまとめから、児童へ目当てのもたせるときは、これまでの学習の定着状況を自分で振り返らせ、自分に必要な学習が何か自己決定させることによって、目当てを明確にさせたり、広げさせたりする。	
		単式形態 2 分母が同じ分数の大小比較の仕方を考える		単式形態 3 お互いの考えを交流し合い、考えのよさを共有する			
		課題のまとめ 1 自分の目当てを明確にする 2 自分の学習定着状況を振り返り補充、発展させる		課題の追究6 1 自分の目当てを明確にする 2 3口の計算の仕方を考える。 3 他校の児童に、自分たちの考えを伝える			
5学年 次単元 各学校毎	計算のきまり 3時間	課題のまとめ1 1 自分の目当てを明確にする 2 自分の学習定着状況を振り返り補充、発展させる				課題のまとめ2 1 自分の目当てを明確にする 2 分数カードゲームで学習内容を深める	
		課題のまとめ2 1 自分の目当てを明確にする 2 分数カードゲームで学習内容を深める					
		課題のまとめ3 1 自分の目当てを明確にする 2 復習をする					
6学年 分習 5～7 各学校毎		課題のまとめ3 1 自分の目当てを明確にする 2 復習をする					

指導案の作成

一単位時間の指導計画には、自己決定場面と決定する内容やその配慮事項を明記します。以下に示す指導案は、第5学年「分数のたし算とひき算」第6学年「分数のたし算とひき算」の第1時と、単元中2度行ったの集合学習の指導案です。

【目標】(第1時) 分習

両学年共通	分数の既習の内容を振り返るとともに、分数の学習に対する課題を明確にする。
-------	--------------------------------------

【展開案】 各校ごとの支援

第5学年				第6学年			
支援()と評価()	自己決定の場	学習活動	過程 形態 過程	学習活動	自己決定の場	支援()と評価()	
分数について知っていることを自由に話し合わせることによって、分数の表し方やその意味についての興味・関心を高めさせる。分数について協働で話し合わせることをとおして、これまでの学年の学習内容を明確にさせる。	【自己決定】 自分と友達の考えの接点を明確にする。 (異学年学習)	1 分数についての既習事項を想起する。	共通 導 入 (直接 指導)	1 分数についての既習事項を想起する。	【自己決定】 自分と友達の考えの接点を明確にする。 (異学年学習)	分数についての既習事項を幅広く振り返らせることによって、分数の表し方について興味・関心をもたせるとともに、学年相互の学習内容の関連性について気づかせる。分数について協働で話し合わせることをとおして、これまでの学年の学習内容を明確にさせる。	
		・ $\frac{4}{5}$ は、1mを5等分した4こ分の長さのことをいう ・ 1lを5等分した4こ分を $\frac{4}{5}$ lという		・ 真分数、帯分数、仮分数 ・ 分母が同じであれば、分子の数で大きさが比べられる ・ 分母が同じであれば、たし算やひき算が出来る ・ 分数を、面積図や数直線に表すことができる			
		2 単元全体を見通した課題をたてる。		2 単元全体を見通した課題をたてる。			
		課題 分数のたし算やひき算の学習計画を立てましょう。					

<p>学習計画を立てさせる ときは、単元全体に目 を向けさせると共に、 単元の学習後、自分の 学びにどんなプラス になることがあるか、 自分のゴール像も見 通させるようにする。</p> <p>児童の実態によっ ては、真分数同士以外 の計算も発展的な問 題として計画に取り入 れるようにする。</p> <p>児童の活動の様子</p> <p>学年相互に関連させ たまとめを行い、学習 の関連性に気づかせ る。</p>	<p>【自己決定】 自分と友達の考 えの接点を明確 にする。 (同学年学習)</p>	<p>3 単元全体を見通した学習 計画づくりをする。 ・自分たちがつくった分数 計算の仲間分けをするこ とをとおして、今後の学習 の見通しをもつ。</p> <div data-bbox="539 384 958 868" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>同分母分数のたし算とひき算</p> <p>1 真分数同士</p> <p>2 真分数、仮分数、帯分数の混 じった計算 (たし算) 真分数+仮分数 真分数+帯分数 仮分数+帯分数 (ひき算) 仮分数-真分数 帯分数-真分数 仮分数-帯分数(逆も)</p> <p>分数の大きさの比べ方</p> </div> <p>4 課題をまとめる。</p>	<p>展 開 展 開 共通 (直接指導)</p>	<p>3 単元全体を見通した学習 計画づくりをする。 ・自分たちがつくった分数 計算の仲間分けをするこ とをとおして、今後の学習 の見通しをもつ。</p> <div data-bbox="1234 384 1653 564" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>異分母分数のたし算とひき算</p> <p>1 同じ大きさの分数の見つけ方</p> <p>2 分母の違う分数の比べ方</p> <p>3 たし算やひき算の練習</p> </div> <p>・5年生の計画づくりに参加す る。</p> <p>4 課題をまとめる。</p>	<p>【自己決定】 自分と友達の考 えの接点を明確 にする。 (同学年学習)</p>	<p>学習計画を立てさせる ときは、単元全体に目 を向けさせると共に、単 元の学習後、自分の学 びにどんなプラスになる ことがあるか、自分のゴ ール像も見通させるよ うにする。</p> <p>異分母分数のたし算や ひき算をするためにど んなことができるよ うになればよいか考えさせ て、単元全体の見通し をもたせるようにする。 児童の活動の様子 5年生の計画づくりに 参加することによって、 6年生の学習内容との 関連を図る。 学年相互に関連させた まとめを行い、学習の 関連性に気づかせる。</p>	
<p>学習プリント 発言 学年を超えて相互評 価させることによって、 共に高まる喜びを味わ わせるようにする。</p>		<p>【自己決定】 問題場面で知り たいと思ったこと を、自分の中に 意味づける。 自己決定カード に記入</p>	<p>5 学習を振り返り、次時の 目標を明確にする。</p>	<p>終 末 共通 (直接指導)</p>	<p>5 学習を振り返り、次時の 目標を明確にする。</p>	<p>【自己決定】 問題場面で知り たいと思ったこと を、自分の中に 意味づける。 自己決定カード に記入</p>	<p>学習プリント 発言 学年を超えて相互評価 させることによって、共 に高まる喜びを味わ わせるようにする。</p>

今後の目標 学年の学習の間に何か関連性
があるか考えていこう。

【目標】(第2時) 集合学習

5 学年	同分母の真分数同士の加法計算のしかたを理解し、その計算ができる。
6 学年	異分母分数の加法計算の考え方を理解する。

【展開案】 各校ごとの支援

第5学年				第6学年			
支援()と評価()	自己決定の場	学習活動と発問	過程 形態 過程	学習活動と発問	自己決定の場	支援()と評価()	
学習計画から本時の課題を確認させる。 他の児童の目的を多面的に受容し合わせ、自分の学びに生かすことができるように支援する。	・学習のしかたを確認する。 【自己決定】 目的を明確にする。 ・本時の課題解決の見通し 自己決定カードに記入	1 学習課題を確認する。 分母が同じ分数のたし算のしかたを考えよう。	導入 T1 共通導入 5分 T1 T2 学年別指導 学年別指導	1 学習課題を確認する。 分母の数を同じにする方法を考えよう。	・学習のしかたを確認する。 【自己決定】 目的を明確にする。 ・本時の課題解決の見通し 自己決定カードに記入	学習計画から本時の課題を確認させる。 他の児童の目的を多面的に受容し合わせ、自分の学びに生かすことができるように支援する。	
		2 本時の問題をつくる。 児童のつくった問題		2 本時の問題を把握する。 $\frac{1}{2}$ と $\frac{1}{3}$ の分母を同じにする方法を考えよう			
		3 解決の見通しをもつ。 ・今まで習ったどんな考え方を使えば解決できそうか考える。		3 解決の見通しをもつ。 ・今まで習ったどんな考え方を使えば解決できそうか考える。			

<p>学習プリント</p> <p>発言 自分の考えと同じ考えを探し、自信をもたせたり、自分と異なる考えから、自分の考えに生かしたり、新しい考え方を発見させるようにする。</p> <p>児童がつくった計算式を使って練習させることにより、意欲を高める。</p>	<p>【自己決定】他の考えから、ものの見方や考え方を広げる。 ・友達の考えのよいところを見つけ、自分に生かす。</p> <p>自己決定カードに記入</p>	<p>4 課題を解決する (個人)</p> <p>5 課題を解決する (集団) ・それぞれの考えを発表する ・友達の考えのよさを見つける ・それぞれの考えをつなげる ・友達の考えを自分に生かす</p> <p>6 課題をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 分母が同じ分数のたし算では、分母はそのままにして、分子だけたします。 </div> <p>7 練習問題を解く。 ・真分数 + 真分数 (真分数以外の児童の作成した計算は、発展的な問題として解く。)</p>	<p>学 年 別 指 導</p> <p>学 年 別 指 導</p> <p>30分</p>	<p>4 課題を解決する (個人)</p> <p>5 課題を解決する (集団) ・それぞれの考えを発表する ・友達の考えのよさを見つける ・それぞれの考えをつなげる ・友達の考えを自分に生かす</p> <p>6 課題をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 数直線を使うと、簡単に同じ大きさの分数を見つけられる。 分母の数を同じにすると、5年生で学習した考えを使って、たし算できる。 </div> <p>7 練習問題を解く。 ・真分数 + 真分数</p>	<p>【自己決定】他の考えから、ものの見方や考え方を広げる。 ・友達の考えのよいところを見つけ、自分に生かす。</p> <p>自己決定カードに記入</p>	<p>学習プリント</p> <p>発言 自分の考えと同じ考えを探し、自信をもたせたり、自分と異なる考えから、自分の考えに生かしたり、新しい考え方を発見させるようにする。</p> <p>数直線を使って解ける練習問題に挑戦させる。</p>
<p>各学年の学習内容の関連を図る。</p>	<p>【自己決定】学び直しを図り、新たな目的をもつ</p> <p>自己決定カードに記入</p>	<p>8 学習内容の関連性を見つける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 分数のたし算は、分母の数が同じであれば、もとになる分数のいくつ分と考えて、整数のたし算の考え方を使える。 </div> <p>9 自己評価、相互評価する。 ・評価カードに記入する。 ・発表する。</p> <p>10 次時の学習課題を確認する。</p>	<p>T1</p> <p>共 通 終 末</p> <p>10分</p>	<p>8 学習内容の関連性を見つける。</p> <p>9 自己評価、相互評価する。 ・評価カードに記入する。 ・発表する。</p> <p>10 次時の学習課題を確認する。</p>	<p>【自己決定】学び直しを図り、新たな目的をもつ</p> <p>自己決定カードに記入</p>	<p>各学年の学習内容の関連を図る。</p>

【目標】(第3時) 分習

5 学 年	同分母分数の減法計算(減数及び差が真分数の場合)のしかたを理解し、その計算ができる。
6 学 年	分数の分母と分子に同じ数をかけても、同じ数でわっても、分数の大きさは変わらないことを理解する。

【展開案】 各校ごとの支援

第5学年				第6学年			
支援()と評価()	自己決定の場	学習活動と発問	過程 形態	過程 形態	学習活動と発問	自己決定の場	支援()と評価()
学習計画から本時の課題を確認させる。 他の児童の目的を多面的に受容し合わせ、自分の学びに生かすことができるように支援する。	・学習のしかたを確認する。 【自己決定】 目的を明確にする。 ・本時の課題解決の見通し 自己決定カードに記入	1 課題を確認する。 分母が同じ分数のひき算のしかたを考えよう。	導入 共通導入 5分 間接指導 直接指導	導入	1 課題を確認する。 大きさの等しい分数を、もっと簡単に見つける方法を考えよう。	・学習のしかたを確認する。 【自己決定】 目的を明確にする。 ・本時の課題解決の見通し 自己決定カードに記入	前時の学習から、数直線や面積図を使わなくても大きさの等しい分数を見つける方法はないか考えさせる。 大きさの等しい分数の分母と分子の関係に着目させる。 他の児童の目的を多面的に受容し合わせ、自分の学びに生かすことができるように支援する。
		2 本時の問題をつくる。 児童のつくった問題			2 答えの見通しをもつ。 ・どんな関係がありそうか予想する。		

<p>学習プリント</p> <p>発言 自分の考えと同じ考えを探し、自信をもたせたり、自分と異なる考えから、自分の考えに生かしたり、新しい考え方を見つけさせるようにする。</p> <p>児童がつくった計算式を使って練習させることにより、意欲を高める。</p>	<p>【自己決定】 他の考えから、ものの見方や考え方を広げる。 ・友達の考えのよいところ見つけ、自分に生かす。 自己決定カードに記入</p>	<p>4 課題を解決する (個人) 5 課題を解決する (集団) ・それぞれの考えをつなげて発表する ・友達の考えのよさを見つける ・友達の考えを自分に生かす 6 課題をまとめる。 分母が同じ分数のたし算では、分母はそのままにして、分子だけひきます。 7 練習問題を解く ・真分数 - 真分数 ・仮分数 - 真分数</p>	<p>直接指導 間接指導 30分</p>	<p>4 課題を解決する (個人) 5 課題を解決する (集団) ・それぞれの考えをつなげて発表する ・友達の考えのよさを見つける ・友達の考えを自分に生かす 6 課題をまとめる。 分母と分子に同じ数をかけても、分母と分子を同じ数でわっても、分数の大きさは変わりません。 7 練習問題を解く ・大きさの等しい分数に変える問題</p>	<p>【自己決定】 他の考えから、ものの見方や考え方を広げる。 ・友達の考えのよいところ見つけ、自分に生かす。 自己決定カードに記入</p>	<p>学習プリント</p> <p>発言 自分の考えと同じ考えを探し、自信をもたせたり、自分と異なる考えから、自分の考えに生かしたり、新しい考え方を見つけさせるようにする。</p>
	<p>【自己決定】 学び直しを図り、新たな目的をもつ 自己決定カードに記入</p>	<p>8 自己評価、相互評価する。 ・評価カードに記入する。 ・発表する。 9 次時の学習課題を確認する。</p>	<p>共通 終末 10分</p>	<p>8 自己評価、相互評価する。 ・評価カードに記入する。 ・発表する。 9 次時の学習課題を確認する。</p>	<p>【自己決定】 学び直しを図り、新たな目的をもつ 自己決定カードに記入</p>	

【目標】(第5時) 集合学習

5 学年	分子が同じ分数の大小比較のしかたを理解する。
6 学年	約分の意味と方法を理解する。

【展開案】 各校ごとの支援

第5学年				第6学年			
支援()と評価()	自己決定の場	学習活動と発問	過程 形態	過程 形態	学習活動と発問	自己決定の場	支援()と評価()
学習計画から本時の課題を確認させる。 他の児童の目的を多面的に受容し合わせ、自分の学びに生かすことができるように支援する。	・学習のしかたを確認する。 ・単元のめあてを確認する。 【自己決定】 目的を明確にする。 ・本時の課題解決の見通し 自己決定カードに記入	1 課題を確認する。 分子が同じ分数の大きさ比べをしよう。	導入 T2 共通導入 T1 5分 T2 T1 学年別指導 学年別指導	導入 T2 T1 5分 T2 T1 学年別指導 学年別指導	1 課題を確認する。 通分のしかたを工夫しよう。	・学習のしかたを確認する。 ・単元のめあてを確認する。 【自己決定】 目的を明確にする。 ・本時の課題解決の見通し 自己決定カードに記入	学習計画から本時の課題を確認させる。 他の児童の目的を多面的に受容し合わせ、自分の学びに生かすことができるように支援する。
		2 本時の問題を把握する。 次の分数の大きさを比べましょう $\frac{1}{2}$ と $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{5}$ $\frac{2}{3}$ と $\frac{2}{5}$ と $\frac{2}{6}$			2 本時の問題を把握する。 $\frac{1}{6} + \frac{1}{4}$ の計算をしましよ		
		3 解決の見通しをもつ。 ・今まで習ったどんな考え方を使えば解決できそうか考える。 面積図を使って考える。 数直線を使って考える。			3 解決の見通しをもつ。 ・今まで習ったどんな考え方を使えば解決できそうか考える。 数直線を使って考える。 面積図を使って考える。		

<p>学習プリント</p> <p>発言 自分の考えと同じ考えを探し、自信をもたせたり、自分と異なる考えから、自分の考えに生かしたり、新しい考え方をを見つけさせたりするようにする。</p>	<p>【自己決定】他の考えから、ものの見方や考え方を広げる。 ・友達の考えのよいところを見つけ、自分に生かす。</p> <p>自己決定カードに記入</p>	<p>4 課題を解決する (個人)</p> <p>5 課題を解決する (集団) ・それぞれの考えを発表する ・友達の考えのよさを見つける ・それぞれの考えをつなげる ・友達の考えを自分に生かす</p> <p>6 課題をまとめる。</p> <p>分子が同じ分数では、分母の大きい方が、分数は小さくなります。</p> <p>7 練習問題を解く。</p>	<p>学年別指導</p> <p>30分</p>	<p>4 課題を解決する (個人)</p> <p>5 課題を解決する (集団) ・それぞれの考えを発表する ・友達の考えのよさを見つける ・それぞれの考えをつなげる ・友達の考えを自分に生かす</p> <p>6 課題をまとめる。</p> <p>分母どうしをかけたり、分母の最小公倍数を見つけて考えると、分母と同じにできる。----- 分母と分子を、それらの公約数でわって、分母の小さい分数にすることを、約分するといいます。</p> <p>7 練習問題を解く。</p>	<p>【自己決定】他の考えから、ものの見方や考え方を広げる。 ・友達の考えのよいところを見つけ、自分に生かす。</p> <p>自己決定カードに記入</p>	<p>学習プリント</p> <p>発言 自分の考えと同じ考えを探し、自信をもたせたり、自分と異なる考えから、自分の考えに生かしたり、新しい考え方をを見つけさせたりするようにする。</p>
<p>各学年の学習内容の関連を図る。</p>	<p>【自己決定】学び直しを図り、新たな目的をもつ</p> <p>自己決定カードに記入</p>	<p>8 学習内容の関連性を見つける。</p> <p>9 自己評価、相互評価する。 ・評価カードに記入する。 ・発表する。</p> <p>10 次時の学習課題を確認する。</p>	<p>T2</p> <p>共通 終末</p> <p>10分</p>	<p>8 学習内容の関連性を見つける。</p> <p>9 自己評価、相互評価する。 ・評価カードに記入する。 ・発表する。</p> <p>10 次時の学習課題を確認する。</p>	<p>【自己決定】学び直しを図り、新たな目的をもつ</p> <p>自己決定カードに記入</p>	<p>各学年の学習内容の関連を図る。</p>

自己決定場面で活用する学習プリント例 (算数科でを使用した自己決定カード)

算数学習プリント

年

1 分数学習のめあて

単元全体をとおして知りたいと思ったことを、学習の目標にすることによって、学習内容を自分の中に価値付けます。

2 自分の学習のしかたのめあて

単元をとおして、自分の学習の仕方の目標をもつことによって、自己の学び方をどこまで高めるかというゴール像を明確にし、継続して振り返らせます。

学習の計画を立てよう！

自分の考え			
<p>今日使った方法はこれ！</p> <p>見通しをもつ過程で考えた解決方法や使えそうな既習事項を記述します。</p>	<p>自分の方法では、最後まで解くことができなかったなあ。</p> <p>自力解決の過程で、自分の考えがどの段階にあるのかとらえます。</p> <p>（ ）</p> <p>さんの考えの～なところを参考にすれば、最後まで解けそう！次は～考えい（はやい！分かりやすい！正しく解けていますね）で解いてみよう。</p> <p>学び合いをとおして、自分の考えを高めるために考えたことを記述します。</p>	<p>自分の方法で、解決することはできたけれど、もっとよい方法だなあ。</p> <p>（ ）</p> <p>さんの～という考えは、～ところがよ</p>	<p>自分の方法は、とても（ ）方法だから、友達にも教えたいなあ。</p> <p>（ ）</p> <p>さんの考と、～というところが似は、こういう考えもブラ</p> <p>自分の考えの段階により近いものを選択し、を付けます。これを基に学び合いのねらいを明確にします。</p>



今日の学習を振り返って

自分の学びの振り返りを記述します。
 学習内容に関すること。
 学習の仕方に関すること。

先生から

アンケートのおねがい (高学年 児童用)

このアンケートは、みなさんの学習のしかたを知るために行うものです。学校での学習やふだんの生活を思い出して、質問に答えてください。このアンケートはテストではありませんので、自分が思ったとおりに答えてください。

これからの質問に対しては、あなたの考えに一番近いものに 印を付けてください。

年 名前

1 あなたは、学習や生活の中で問題や課題に出会ったとき、自分から進んで解決したいと思いますか。

- ア 思う
- イ どちらかというと思う
- ウ どちらかというと思わない
- エ 思わない

2 あなたは、学習に取り組む前に、その学習内容が普段の生活や学習のどんなことに役立ちそうか(どんなことに役立てたいか)考えますか。

- ア 考える
- イ どちらかという考える
- ウ どちらかという考えない
- エ 考えない

3 あなたは、友達の考えと自分の考えを進んで比べますか。

- ア 進んで比べる
- イ どちらかという進んで比べる
- ウ どちらかという進んで比べない
- エ 進んで比べない

4 あなたは、友達の考えを参考にして、新しい解決方法を発見しようと思いますか。

- ア 思う
- イ どちらかというと思う
- ウ どちらかというと思わない
- エ 思わない

5 あなたは、自分の学習のしかたをふり返って、次はこんな学習のしかたをしてみようと思うことがありますか。



次は

- ア ある
- イ どちらかというがある
- ウ どちらかというがない
- エ ない

例1：ともだちの考えのよいところをもつと見つけよう。

例2：解決の方法をたくさん考えよう。

例3：自分の考えをうまく説明して、相手に分かりやすく伝えよう

など

6 あなたは、ふだん生活の中で、「これは学校で学習したことを使えば解決できそうだ」とか「学校で学習したことをもとにして、家でもやってみよう」と思うことがありますか。

- ア ある
- イ どちらかというがある
- ウ どちらかというがない
- エ ない

これでアンケートは、終わりです。
ありがとうございました。

アンケートのおねがい ていがくねん じどうよう (低学年 児童用)

このアンケートは、みなさんの学習のしかたを知るために行うものです。学校での学習やふだんの生活を思い出して、しつもん^{こた}に答えてください。このアンケートはテストではありませんので、自分が思ったとおりに答えてください。これからのしつもん^{たい}に対しては、あなたの考えに一番近いものに印^{じるし}を付けてください。

とし 年 なまえ 名前

1 あなたは、学習や生活の中でなぜだろう、知りたいなと思うことにすすんでとりくみたいと思いますか。

- ア 思う
- イ どちらかというと思う
- ウ どちらかというと思わない
- エ 思わない

2 あなたは、学習をする前に、その学習を生かしてどんなことができるようになりたいか考えますか。

- ア 考える
- イ どちらかという考える
- ウ どちらかという考えない
- エ 考えない

3 あなたは、友達の考えと自分の考えをすすんでくらべますか。

- ア すすんでくらべる
- イ どちらかというすすんでくらべる
- ウ どちらかというすすんでくらべない
- エ すすんでくらべない

4 あなたは、ともだちの ^{かんが} ^き 考えを聞いたあとに、ともだちのほうほうでも、もんだいをとこうとおもいますか。

- ア 思う
- イ どちらかというと思う
- ウ どちらかというと思わない
- エ 思わない

5 あなたは、これまでの ^{がくしゅう} 学習をふりかえって、つぎは、^{がくしゅう} 学習のしかたをこうかえようとおもっていますか。

つぎは

- ア ある
- イ どちらかというとある
- ウ どちらかというとない
- エ ない

れい1：ともだちの ^{かんが} 考えのよいところをもっと ^み 見つけよう。

れい2：ときかたをたくさん ^{かんが} 考えよう。

れい3：自分の ^{じぶん} ^{かんが} 考えをうまく ^{せつめい} 説明して、
^{あいて} ^{つた} 相手に伝えよう

など

6 あなたは、ふだんの ^{がくしゅう} ^{せいかつ} ^{なか} 学習や生活の中で、「これは ^{がっこう} ^{がくしゅう} 学校で学習したことをつかえば ^{がっこう} ^{がくしゅう} 学校で学習したことをもとにして、^{いえ} 家でもやってみよう」と ^{おも} 思うことがありますか。

- ア ある
- イ どちらかというとある
- ウ どちらかというとない
- エ ない

これでアンケートは、おわりです。
ありがとうございました。

アンケートのおねがい (高学年 児童用)

このアンケートは、みなさんの学習のしかたを知るために行うものです。学校での学習やふだんの生活を思い出して、質問に答えてください。このアンケートはテストではありませんので、自分が思ったとおりに答えてください。

これからの質問に対しては、あなたの考えに一番近いものに 印を付けてください。

年 名前

1 あなたは、学習や生活の中で問題や課題に出会ったとき、自分から進んで解決したいと思えますか。

- ア 思う
- イ どちらかというと思う
- ウ どちらかというと思わない
- エ 思わない

2 あなたは、学習に取り組む前に、その学習内容が普段の生活や学習のどんなことに役立ちそうか(どんなことに役立てたいか)考えますか。

- ア 考える
- イ どちらかという考える
- ウ どちらかという考えない
- エ 考えない

3 あなたは、友達の考えと自分の考えを進んで比べますか。

- ア 進んで比べる
- イ どちらかという進んで比べる
- ウ どちらかという進んで比べない
- エ 進んで比べない

4 あなたは、友達の考えを参考にして、新しい解決方法を発見しようと思いますか。

- ア 思う
- イ どちらかというと思う
- ウ どちらかというと思わない
- エ 思わない

5 あなたは、自分の学習のしかたをふり返って、次はこんな学習のしかたをしてみよう と思うことがありますか。

次は

- ア ある
- イ どちらかというところがある
- ウ どちらかというところがない
- エ ない

例1：ともだちの考えのよいところをもつと見つけよう。

例2：解決の方法をたくさん考えよう。

例3：自分の考えをうまく説明して、相手に分かりやすく伝えよう

など

6 あなたは、ふだん生活の中で、「これは学校で学習したことを使えば解決できそうだ」とか「学校で学習したことをもとにして、家でもやってみよう」ということがありますか。

- ア ある
- イ どちらかというところがある
- ウ どちらかというところがない
- エ ない

これでアンケートは、終わりです。
ありがとうございました。

教師用アンケート

1 児童一人一人の主体的に学ぶ力を育成する上で、自己決定場面を取り入れた学習指導が役立ったと思われる項目をすべて選んで を付けてください。

ア 知りたいことが、児童の生活や今後の学習にどんな意味があるのか明確にすること。

イ 学習の仕方に対する自己の目的を明確にすること。

ウ 学習内容や学習の仕方に対する自己の目的を継続してもつこと。

エ 自己と他者の考えやその接点を明確にすること。

オ 他者の考えから自己の学びを修正すること。

カ 自己をより高めるために、学び方を振り返ること。

キ 振り返った学び方を活用して、新たな課題に取り組もうとする目的をもつこと。

ク その他 ()

2 自己決定場面を取り入れた学習指導を行う上で、改善・修正を加えた方がよいと思われることは
どんなことですか。

目的を明確にする場

学び対する相互交流の場

学び直しを図り、新たな目的をもつ場

3 児童一人一人の主体的に学ぶ力を育成する上で、合同学習や集合学習が役立ったと思われる項目をすべて選んで を付けてください。

ア 他校の児童の考えと相互交流、相互思考することによって、ものの見方や考え方を広げたり深めたりすること。

イ 多様なものの見方や考え方を自分なりに整理し、新しい考え方を見出すこと。

ウ 広げたり、深めたりした考えを自分の学びに生かし、これまでの学び方を修正すること。

エ 全習で修正した自己の学びを振り返り、自分をより高めるために、新たな目的をもつこと。

オ 高まった自己の姿や新たな目的へのかかわり方について、他校児童に発信し、常に自分の学びを学び直すこと。

カ その他 ()

4 合同学習や集合学習を行う上で、改善・修正を加えた方がよいと思われる項目をすべて選んで を付けてください。また、その訳もお書きください。

ア 他校の児童の考えと相互交流、相互思考することによって、ものの見方や考え方を広げたり深めたりすること。

イ 多様なものの見方や考え方を自分なりに整理し、新しい考え方を見出すこと。

ウ 広げたり、深めたりした考えを自分の学びに生かし、これまでの学び方を修正すること。

エ 全習で修正した自己の学びを振り返り、自分をより高めるために、新たな目的をもつこと。

オ 高まった自己の姿や新たな目的へのかかわり方について、他校児童に発信し、常に自分の学びを学び直すこと。

()

()

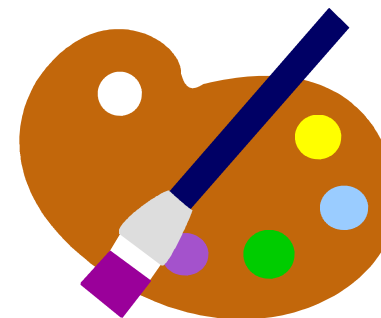
()

()

月	第1・2学年				第3・4学年				第5・6学年			
	題材名	時間	分野	主題	題材名	時間	分野	主題	題材名	時間	分野	主題
4月 一学期	1 みつけたよ	2			1 ためしながら	2			1 自信をもって	2		
	2 すきなものなあに	2	絵	想の拡充	2 きせつの中で	6	造形遊び	材料や場所の活用	5 こんなとき感じるこ とと思うこと	6	絵	想の拡充
	3 みんななかよし くるくるチョッキン	4	つくる	想の拡充	4 グルグルかくかく	4	絵	行為の展開				
	かさねてチョッキン	4	つくる	想の拡充	6 風パワーぜんかい	6	つくる	行為の展開				
	おってチョッキン	4	つくる	想の拡充	ウインドガー	6	つくる	行為の展開				
	～の中から、 2 題材選択する。				スルスルスットン	6	つくる	行為の展開				
	合同学習題材(例) 「ねんどくっつけ」 【立体】 行為の展開 (全4時間) 【1・2年】 7 ねんどでたしざん 【3・4年】 5 くっつけくっつけ 【5・6年】 9 曲げてねじって											
7月	4 できたできた すきなばしよで	4	造形遊び	材料や場所の活用					きょうかしよびじゅつか ん		鑑賞	
	いろいろなかみで	4	絵	材料や場所の活用					よく見てみると 日本のアート	4		
8月 二学期	きょうかしよびじゅつ かん	2		鑑賞								
	5 はこハコはこ	4	立体	材料や場所の活用	7 心キラリ	6	絵	想の拡充	6 動くよ動く絵が動く アニメーションボックス	6	工作	想の拡張
	6 どんどんならべて	4	造形遊び	行為の展開	きょうかしよびじゅつ かん	2		鑑賞	7 ほって刷って 刷ったものに色をたすと 一ぱん多色はんで ほり進み木はんで	6	絵	想の拡張
合同学習題材(例) 「かいじゅうがやってきた」 【造形遊び】 材料や場の活用 (全4時間) 【1・2年】 9 こっちにおいでよ 【3・4年】 10 ふわふわゴーパー 【5・6年】 2 ダイナミックスペース												

12月	10 おもしろいかたち いっぱい				13 みんなでつくろう! ゆめのまち	6	つくる	想の拡充	10 光とかげ 光を当てると ブラックライトの ひかりで			行為の展開 行為の展開
	いしのへんしん	4	つくる	材料や場所の活用 材料や場所の活用 想の拡充	14 広がれ生き物ワ ールド	6	絵	行為の展開		4	造形遊び	
	はっぱのへんしん	4	つくる							4	造形遊び	
	12 たのしいなすごいな 立体に表すと 絵に表すと	6	立体 絵									
1月	13 ウキウキドキドキ	6	絵	想の拡充	15-1 切って切って トントントン	6	造形遊び	行為の展開	13-1~6 広がれアート	8	全領域	想の拡充
	14 ペタペタペタン	4	造形遊び	行為の展開								
<p>合同学習題材(例) 「地域のおはなしつなげたら」 【絵】 想の拡充 (全6時間)</p> <p>【1・2年】 12 みて、みて、おはなし</p> <p>【3・4年】 12 そのときの気持ちを大切に</p> <p>【5・6年】 12 心広がる場面</p>												
一 三 学 期 一	15-1 ニョキニョキ コロコロ				15-2 切って切って トントントン							
	むくむくニョキニョキ ヒラヒラコロコロ	6	つくる	行為の展開	ゆかいな木 えだをつかって	4	造形遊び	行為の展開				
	15-2 ニョキニョキ コロコロ	6	つくる	行為の展開								
3月	ふたつでひとつ	2	つくる	行為の展開					↓ 1~6の中から、 1~2題材選択する。			

注:時数に 印の付いた題材は、題材を1つ選択して指導する単元を表す。



【図画工作科における合同学習のねらい】

1・2学年	3・4学年	5・6学年
・材料や道具、作品の違いに関心をもち、他の学年の人の行為から多様な表現方法があることに気づき、自分の表現に生かす。	・材料や道具、作品の違い(よさ)に気付き、他の学年の人の発想や行為のよさを見つけ、自分の表現に生かす。	・多様な視点から材料、道具、作品、発想や行為のよさを進んで見つけ、自分の表現を高めるために工夫する(付け足す、つくり替える)。

下学年の活動 上顎年の活動

月	題材名 共通目標	1・2学年		学年間の関連 及び発展性	3・4学年		学年間の関連 及び発展性	5・6学年	
		学習目標	学習内容		学習目標	学習内容		学習目標	学習内容
6月	<p>【題材名】 ねんど くっつけ</p> <p>〔共通目標〕 粘土の特性を生かし、友達の表現方法を自分に取り入れながら、協働でつくる楽しさを味わう。</p> <p>(全4時間)</p>	<p>粘土に親しみ、粘土の感触を自分の手になじませるようにする。</p> <p>いろいろな粘土の形をつくり積んだり並べたりしながら表し方を工夫するようにする。</p> <p>できあがった形を見て楽しんだり、さらに工夫したりするようにする。</p>	<p>粘土が思いにあった形になるように工夫しながら、特性を十分味わうこと。</p> <p>いろいろな形の組み合わせを自由に考え、表し方を工夫してつくること。</p> <p>自分の作品をもう一度見直し、気に入ったところや、改良するところを見つけること</p>	<p>思いのままに粘土を丸めたり、ちぎったりくっつけたりし、そのこと自体を楽しむ。</p> <p>友達とのかかわりで、互いの発想の楽しさやつくりかたのよさなどを認め合う。</p>	<p>粘土を付け足しながらできる空間の変化を楽しもうとするようにする。</p> <p>粘土の特性を生かしながら、自分で想像した内容をもとにするようにする</p> <p>友達の作品を見ながら、そのよさを味わい、自分の作品に生かすようにする。</p>	<p>年度の固まりで土台をつくりいろいろな形の粘土を付けたり、したりすること。</p> <p>つくり出した形を見直したり、どのような付け方がよいのか考えながらつくること。</p> <p>友達のつくり方やそのよさを味わい、自分の作品に取り入れること。</p>	<p>水彩絵の具などの扱い方に慣れながら工夫して描く。</p> <p>今まで経験してきた技法などを自分なりに組み合わせたり、画用紙を選んだりして描く。</p>	<p>粘土を加工していく操作から、思いついた形を作品にするようにする。</p> <p>粘土の板づくりや、どべを使った接着方法などを工夫するようにする。</p> <p>友達のやり方を見ながら、自分の作品に生かすようにする。</p>	<p>粘土を板にして、自由に曲げたりねじったり、切り取ったりすること。</p> <p>できた形や空間から、つくりたいものを想像していくこと。</p> <p>友達のやり方も参考にしながら、道具の使い方や手順を考えて作品をつくること。</p>

<p>9月</p>	<p>【題材名】 怪獣がやってきた</p> <p>〔共通目標〕 テーマからイメージを膨らませて作り、協働で場を変化させる楽しさを味わう。 (全4時間)</p>	<p>新聞紙のもつ特徴を生かし、遊ぶものを楽しんでつくるようにする。</p> <p>丸めたり、つなげたり、囲ったりして、つくるものの形や使い方を試すようにする。</p> <p>つくったもので遊ぶ楽しさを味わうようにする。</p>	<p>新聞紙の持つ特徴に気づく。</p> <p>丸めたり、つなげたり、囲ったりする中で、自分のつくりたいものを思いつくる。</p> <p>つくったもので遊んだり、鑑賞したりすること。</p>	<p>思いのままに貼ったり囲んだりする。</p> <p>活動場所の広さや形状などを生かしながらか、貼ったり囲んだりする。</p> <p>自分の思いのままに活動して楽しむ。</p> <p>友達と話し合い、協力して活動する。</p>	<p>中に入ること</p> <p>ができる身近な場所を見つけ、親しむようにする。</p> <p>場所から感じたことを膨らませ、新聞紙で囲んだり飾ったりするようにする。</p> <p>友達と中に入ったり、外から見たりして楽しむ。</p>	<p>学校内や校庭で、中に入って楽しむような場所を見つけること。</p> <p>友達と話し合い、新聞紙で、囲んだり、飾ったりすること。</p> <p>中に入ったり外から見たりして確かめること。</p>	<p>活動場所の広さや形状などを生かしながらか、貼ったり囲んだりする。</p> <p>光や風などの自然も利用して、造形的な構成を工夫する。</p> <p>美しさや強度役割分担などを考え計画的に活動する。</p>	<p>新聞のもつ軽さなど、材料としての特色を生かして、場所の雰囲気を変化させる面白さを楽しむようにする。</p> <p>友達と協力する楽しさに気づき自分の表現を高めるために、より一層工夫するようにする。</p>	<p>材料や場所の特徴から、つくりたいものをみんなで話し合い考えること。</p> <p>つくる手順や装飾の仕方などに気をつけて計画を立てること。</p> <p>つくったもので遊んだり、交流したりして、作品のよさを味わうこと。</p>
<p>2月</p>	<p>【題材名】 地域のお話</p> <p>つながたら</p> <p>〔共通目標〕 自分が表した絵を、グループ全体でつなげて思いを広げる楽しさを味わう。 (全6時間)</p>	<p>地域にまつわる話などから思いを広げて、絵に表す楽しさを味わうようにする。</p> <p>表したい場面への思いを、自分の好きな表し方で絵に表すようにする。</p> <p>絵を組み合わせると、発想豊かな作品が作り出されることに気づくようにする。</p>	<p>材料や用具を選び、絵に表したい場面を工夫して楽しく表すこと。</p> <p>他のグループの作品を見て、絵に表すことの楽しさや作品のよいところを話し合うこと。</p>	<p>偶然のおもしろさや楽しさを味わう。</p> <p>表したいことを表すために色の組み合わせの感じなどに興味をもって描く。</p>	<p>地域にまつわる話などから思いを広げて、絵に表す楽しさを味わうようにする。</p> <p>絵に表したい場面の思いや様子を、自分なりの表し方で工夫するようにする。</p>	<p>お話を聞いたり読んだりして絵に表したい好きな場面を想像すること</p> <p>想像した場面の感じや様子を、簡単なラフスケッチで表すこと。</p> <p>他のグループと作品を見せ合いながら、お互いの表現の工夫したところやよい点話し合うこと。</p>	<p>自分のつくりたいものをつくる際、美しさなどを考え、大まかな計画をもちつくる。</p> <p>自分の表したいものの動きなどが、見るものに伝わるように構想してつくる。</p>	<p>地域にまつわる話などから思いを広げて、そこから場面を構想する楽しさを味わうようにする。</p> <p>表そうとする場面がよく表れるように、構図や色の使い方を工夫するようにする。</p> <p>作品を見せ合いながら、想像力や表現力の豊かさやよさを認め合うようにする。</p>	<p>かきたいところを想像し、どの場面を闇のかくか決めること。</p> <p>ラフスケッチなどで構想を練ること。</p> <p>表したい内容に合わせて、用紙や材料、技法などを学ぶこと。</p> <p>絵の具の使い方を工夫しながら、彩色すること。</p> <p>作品をお互いに鑑賞し合うこと。</p>

第5学年 (6時間)				第6学年 (9時間)			
指導類型a (領域:数と計算)							
共通目標 分数のたし算とひき算の仕方を理解し、その計算ができる。 他校の児童の考えや自分の考えをかかわらせ、よりよく説くことができる。							
学習活動	目標と集合学習のねらいの重点	分全	小単	小単	分全	目標と集合学習のねらいの重点	学習活動
・単元全体を見通した学習計画づくりをする。	分数の既習の内容を振り返るとともに、分数の学習に対する課題を明確にする。	分	分数のたし算	分数のひき算	分	分数の既習の内容を振り返るとともに、分数の学習に対する課題を明確にする。	・単元全体を見通した学習計画づくりをする。
・ $\frac{3}{5} + \frac{4}{5}$ の計算のしかたを考える。	同分母の真分数同士の加法計算のしかたを理解し、その計算ができる。	全	算と	算	全	異分母分数の加法計算の考え方を理解する。	・ $\frac{1}{2} - \frac{1}{3}$ と等しい分数を考える中で、分母の等しい分数を見つけて足し算をする。
・ $\frac{7}{5} - \frac{4}{5}$ の計算のしかたを考える。 $\frac{1}{2} - \frac{3}{6} - \frac{5}{10}$	同分母分数の減法計算のしかたを理解し、その計算ができる。	分	と	ひ	分	分数を分母と分子に分けて、同数を乗除しても、分数の大きさは変化しないことを理解する。	・ $\frac{1}{2} - \frac{2}{4} - \frac{3}{6}$ と等しい分数の作り方を考える。 $\frac{3}{2} - \frac{3}{4}$
・を全体とみた図に色を塗って表したり、数直線を使って大きさの等しい分数をさがす。	真分数の相等関係を理解する。	分	大	き	分	通分の関係を理解する。 異分母分数の減法のしかたを理解する。	・との分数の大きさの比べ方を考える。 ・「通分」の意味を知る。 ・ $\frac{3}{4} - \frac{2}{3}$ の計算のしかたを考える。
・数直線をもとにして分数の大小を比べる	分母が同じ分数の大小関係のしかたを理解する。	全	等	い	全	約分の意味と方法を理解する。	・ $\frac{1}{6} + \frac{3}{8}$ の計算をとおして簡単な分数にするのしかたを考える。
・自分の課題に立ち返り、学習内容を補充、発展する。	学習内容の理解を確認する。	分	ま	と	分	3口の計算のしかたを理解する。	・「約分」の用語の意味を知り3口の計算のしかたを考える。
計算のきまり(3時間)				ま	と	学習内容の理解を確認する。	・自分の課題に立ち返り、学習内容を補充、発展する。
				分	分	外的な学習活動をとおして学習内容の理解を深め、興味を広げる。	・(やってみよう)分数カードゲームに取り組む。
				分	分	学習内容の理解を確認する。	・「たしかめよう」に取り組む。